

2025年度 2期・秋学期
名古屋外国語大学 授業改善のためのアンケート調査
結果総括

FD委員会
アンケート調査実施プロジェクトチーム
梅垣昌子（副学長・教育担当）

2025年度2期（国際日本語教育インスティテュートは秋学期）の授業を対象として、「授業改善のためのアンケート調査」が実施された。この調査は、授業に対する学生の要望を把握し、授業の改善に役立てるとともに、FD活動を促進し、本学の教育の質の向上に資することを目的とする。本調査は、名古屋外国語大学FD委員会のもとに置かれた、アンケート調査実施プロジェクトチームによって実施された。実施期間は、下記のとおりである。

学部：2025年12月17日（水）～2026年1月19日（月）

大学院：2025年12月17日（水）～2026年1月10日（月）

国際日本語教育インスティテュート*：2025年12月3日（水）～2025年12月16日（火）

*留学生別科（IJLE）

調査対象科目には、原則として、2期開講の全授業科目が含まれ、すべての専任教員及び非常勤教員の担当科目が対象となる。但し、10名以下（大学院及び国際日本語教育インスティテュートは3名以下）の科目や、オムニバス方式による授業、集中講義等は、対象外となる。調査には原則としてWebシステムを用い、結果の集計は、マーク式及び記述式の回答事項ともに、教務課において行われた。

調査結果は集計後、各授業担当教員に返却された。その結果について、授業担当教員を対象とする「2025年度2期授業改善のためのアンケート調査に対する教員アンケート」を実施した。教員アンケートは、記述式による4つの質問項目からなる。

本報告では、2025年度2期の「授業改善のためのアンケート調査」への受講生の回答結果と、「授業改善のためのアンケート調査に対する教員アンケート」に寄せられた教員からのコメントについて、全学的な総括を行う。科目系列ごとの詳細については、各学科・センターによる分析結果を参照いただきたい。

1. 授業改善のためのアンケート調査結果（受講生による回答）

（1）回答結果の概要

今回の「授業改善のためのアンケート調査」は、受講者総数32,805名を対象に、Webシステムで実施した。回答総数は10,277件で、回収率（回答総数÷受講者総数）は31%であった。な

お、前年の2024年度においても2期に同様のアンケート調査をWebシステムで実施したが、回収率（回答総数÷受講者総数）は28%であった。受講者総数、回答総数、回収率のそれぞれについて、学部・大学院・留学生別科の内訳は、以下のとおりである。

回答結果の概要	授業改善のためのアンケート調査 実施年度→	2025	2024
受講者総数	全学	32,805	29,343
	学部	32,184	28,832
	大学院	59	41
	国際日本語教育インスティテュート	562	470
回答総数	全学	10,277	8,318
	学部	10,046	8,177
	大学院	30	23
	国際日本語教育インスティテュート	201	118
回答率	全学	31%	28%
	学部	31%	28%
	大学院	51%	56%
	国際日本語教育インスティテュート	36%	25%

（２）質問項目ごとの分析結果

授業改善のためのアンケート調査は、マーク式質問と記述式質問からなる。マーク式質問については、4つのカテゴリーのもとに、総計21の質問が設けられており、そのうちの12問は全授業に共通、9問は特定の科目や授業形態を対象としたものである。回答形式は5点法を採用している。4つのカテゴリーと選択肢は次のとおりである。（詳細については【別表1】参照）

< 4つのカテゴリー >

A. 総合評価 B. 学生自身について C. 授業方法について D. 授業内容について

< 選択肢（5点法） >

5. とてもそう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. そうは思わない

記述式質問については、「授業に関する良かった点」「授業で改善を求めたい点」「その他、意見や要望」の3項目について回答を求めている。なお、マーク式質問で「そうは思わない」と回答した項目について、特記事項があれば記載するよう求めている。

以下、マーク式質問項目において全学的な総括を行う。具体的には、全授業に関わる質問項目について、全学的な傾向を確認する。特定の科目に関する個別事項等については、各学科・センターによる分析結果を参照いただきたい。

A. 総合評価

総合評価のカテゴリーに設けられた質問項目は1つで、授業の満足度を問うものである。授業の満足度については、全授業の平均値が4.4（5点法）であった。そのうち、もっとも高かったのは、前年度に引き続き、大学院の4.9であった。授業の満足度については、例年、全学的に比較的高い水準を維持しており、特に大学院については、4.9以上の評価が続いている。この項目に関する詳細と過去3年の推移は次の表のとおりである。

A 総合評価	授業改善のためのアンケート調査 実施年度→	2025	2024	2023
A-1 授業の満足度	全学	4.4	4.3	4.3
	学部	4.4	4.3	4.3
	大学院	4.9	4.9	5.0
	国際日本語教育インスティテュート	4.4	4.4	4.4

B. 学生自身について

学生自身に関するカテゴリーに設けられた質問項目は5つあり、そのうちの3つが全授業に関わるもので、それぞれ、受講者が自分の出席状況、受講態度、シラバスの活用（登録前・履修中）について評価した結果を示すものである。出席と受講態度について、全授業の項目平均値はそれぞれ、4.3と4.5であった。いずれも、大学院がもっとも高い数値を示しており、5.0に達している。シラバスの活用については、全学の平均が3.7であり、比較的低い数値になっているが、大学院と国際日本語教育インスティテュートについては、いずれも4.4以上を示している。学部におけるシラバスの活用度が相対的に低い状態が続いている。この3つの項目に関する詳細と過去3年の推移は次の表のとおりである。

B	学生自身について	2025	2024	2023
B-1 出席	全学	4.3	4.3	4.4
	学部	4.3	4.3	4.4
	大学院	5.0	4.6	4.9
	国際日本語教育インスティテュート	4.5	4.1	4.2
B-2 受講態度	全学	4.5	4.4	4.4
	学部	4.5	4.4	4.4
	大学院	5.0	4.9	5.0
	国際日本語教育インスティテュート	4.7	4.5	4.6
B-3 シラバスの活用	全学	3.7	3.7	3.7
	学部	3.7	3.6	3.7
	大学院	4.8	4.6	4.9
	国際日本語教育インスティテュート	4.4	4.5	4.4

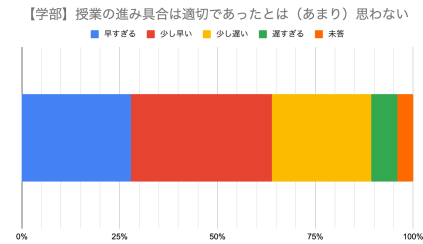
C. 授業方法について

授業方法に関するカテゴリーに設けられた質問項目は6つあり、そのすべてが全授業に関わるもので、授業進捗の適切性、説明のわかり易さ、授業時間（開始・終了時刻）が守られているか、教員の熱意、私語への適切な処置、授業参加への配慮について評価した結果を示している。説明のわかり易さ、授業時間、熱意、授業参加への配慮に関する評価は、4.4から4.6の範囲を示している。大学院においては、6項目のうち5項目で5.0に達している。授業進捗と私語への適切な配慮については4.3であった。授業進捗が適切であったかという質問については、「そうは思わない」「あまりそう思わない」と回答した受講生は全体の5%であった。その内訳については、早いと感じている者の割合が63%、遅いと感じている者の割合が33%であった。なお、大学院については、全員が適切であったと回答している。これら6つの項目に関する詳細は次の表のとおりである。学部については、授業の進捗について比較的多様な反応を得ているため、その詳細を帯グラフにより可視化した。

C	授業方法について	2025	2024
C-1-1 授業進度 の適切性	全学	4.3	4.3
	学部	4.3	4.3
	大学院	5.0	4.7
	国際日本語教育インスティテュート	4.3	4.4
C-2 説明 のわかり易さ	全学	4.4	4.4
	学部	4.4	4.4
	大学院	5.0	4.9
	国際日本語教育インスティテュート	4.4	4.5
C-3 授業開始・終了 時刻の厳守	全学	4.6	4.6
	学部	4.6	4.6
	大学院	4.9	4.9
	国際日本語教育インスティテュート	4.8	4.7

C-4 教員の熱意	全学	4.6	4.6
	学部	4.6	4.6
	大学院	5.0	5.0
	国際日本語教育インスティテュート	4.7	4.6
C-5 私語 への適切な処置	全学	4.3	4.2
	学部	4.3	4.2
	大学院	5.0	4.8
	国際日本語教育インスティテュート	4.6	4.4
C-6 授業参加 への配慮	全学	4.4	4.4
	学部	4.4	4.4
	大学院	5.0	4.9
	国際日本語教育インスティテュート	4.7	4.6

授業の進み具合は適切であった	全学	学部	大学院	IJLE
回答総数	10,277	10,048	30	201
とてもそう思う・ややそう思う・普通	9,754	9,536	30	190
そうは思わない・あまりそう思わない	523	512	0	11
早すぎる	144	143	0	1
少し早い	186	184	0	2
少し遅い	135	130	0	5
遅すぎる	37	34	0	3
未答	21	21	0	0



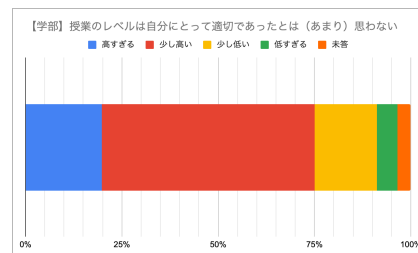
D. 授業内容について

授業内容に関するカテゴリーに設けられた質問項目は8つあり、そのうちの2つが全授業に関わるもので、授業のレベルの適切性と授業への興味について評価した結果を示している。それぞれ全学では4.2と4.3であるが、大学院においてはいずれも5.0に達している。授業レベルが適切であったかという質問については、「そうは思わない」「あまりそう思わない」と回答した受講生は全体の7%であった。その内訳については、高いと感じている者の割合が74%、低いと感じている者の割合が22%であった、これら2つの項目に関する詳細は次の表のとおりである。学部については、授業のレベルについて比較的多様な反応を得ているため、その詳細を帯グラフにより可視化した。

D	授業内容について	2025	2024
D-1-1 授業レベル の適切性	全学	4.2	4.2
	学部	4.2	4.2
	大学院	5.0	4.8
	国際日本語教育インスティテュート	4.4	4.2

D-2 授業内容 への興味	全学	4.3	4.3
	学部	4.3	4.3
	大学院	5.0	4.8
	国際日本語教育インスティテュート	4.5	4.5

授業のレベルは自分にとって適切であった	全学	学部	大学院	IJLE
回答総数	10,277	10,048	30	201
とてもそう思う・ややそう思う・普通	9,570	9,351	30	191
そうは思わない・あまりそう思わない	707	697	0	10
高すぎる	139	138	0	1
少し高い	387	385	0	2
少し低い	115	113	0	2
低すぎる	41	37	0	4
未答	25	24	0	1



2. 授業改善のためのアンケート調査結果に対するフィードバック（教員による回答）

授業改善のためのアンケート調査の結果に関し、授業担当教員を対象として「2025年度授業改善のためのアンケート調査に対する教員アンケート」を実施した。このアンケートは記述式

により実施され、4つの質問項目からなる。（詳細については【別表2】参照）多く寄せられたコメントの中から、代表的な記述を中心に、そのごく一部を紹介する。

（１）アンケート調査結果の受け止め方

- ・ 回答者が少なく、全体の4分の1以下であったのでとても残念でした。
- ・ 授業内で入力時間をとったが、回答数が低かったので次回からはもう少し入力喚起を行いたいと感じた。
- ・ 回答者数が多くなかったため、クラス全体の実像ではないと思うが、回答した学生は割と積極的に取り組んでいた、授業を評価していたことが分かった。
- ・ Although the results were positive, I was disappointed in the low number of students who take the survey. Next time I will remind students so they do not forget about it or give them time in class to take the survey. I'm happy that the students who did take the survey reported that they enjoyed the class though.
- ・ Not many students responded so I cannot derive any meaningful conclusions from the data.

（２）授業で解決すべき課題

- ・ 学生に対して、もう少し丁寧なシラバスの確認・説明が必要だったかもしれません。
- ・ 学生の興味・関心と授業をより結び付ける工夫が必要。
- ・ 学生の実情の理解に一層努める必要があると感じます。
- ・ 年々学生の英語力の差が大きくなっている気がする。どのレベルも満足する授業がなかなか難しく、今後も考えていきたい。学生に対して、もう少し丁寧なシラバスの確認・説明が必要なのかもしれない。
- ・ Based on student feedback, it seems that it was difficult to please all of the students all of the time with the selections of readings, assignments, and in-class activities. Several of these issues may be solved by my explaining the aims and goals of each part of the class more clearly and linking it to the objectives of the class and the students' lives more clearly.
- ・ I must better encourage students at the lower end of the ability range to contact me for help.

（３）授業での工夫

- ・ 100人クラスと履修人数が多いが、個別に接点を持つために「ミニレポート（1枚の用紙を学期最後まで使う）」を使用し、欠席した場合は個別にアプローチできるようにしている。自己管理が苦手な学生も、接点を持つことで欠席回数の把握や課題提出の促しができ効果があると感じている。
- ・ レスポンスカード（ミニツツペーパー）により、毎回、理解度等の確認や質問の受付を行っている。
- ・ 少人数であったことを活かし、積極的にディスカッションと発表の機会を設け、すべての受講生が発言できるよう配慮しました。

・ 毎回、10分前に授業を終了し、リアクションペーパーを書かせて時間内に提出させた。すべて手書きであるので、生成AIの使用は想定していなかったが、それでも100人の教室の中では生成AI使用が疑われるリアクションペーパーがあった。

・ I conduct my own feedback surveys with students periodically during the semester. I also conducted my own "course evaluation" survey with my classes because NUFS does not conduct course evaluations during the spring semester, and then in the fall the NUFS survey does not collect enough data on relevant points that would allow me to make more informed decisions on class revisions.

・ In this course, emphasis was placed on active student participation, which is essential for developing oral communication skills. Pair work, group discussions, and interactive speaking tasks were incorporated to encourage students to use English actively in class.

(4) FDへの意見

・ 学生の性質も年々変化していると思われる。現在の学生の考え方や学生によく伝わる授業の方法などを取り上げてほしい。

・ 成果を披露するものではなく、課題、問題点をともに考えるような報告や討論。

・ 生成AIの使用を前提としたレポート提出のさせ方。

・ 講義科目において、他の先生方が、レポートやテストなど、具体的にどのように成績をつけているのか気になります。

・ I hope we can share more interesting writing activities with each other to promote higher enthusiasm and learning for the students.

・ Faculty Development ensures that instructors remain current in their field and engage in continuous professional improvement each year.

3. まとめ

今回の授業改善のためのアンケート調査では、総合的な授業の満足度について、過去5年間の結果と同様に、全学的に高い数値を維持している。教員の熱意に関する項目が、総合的な授業の満足度の平均値を上回っていることから、総合的な授業の満足度の高さを維持している要因の一つは、授業に対する教員の真摯な姿勢であることが推測できる。このように概ね良好な結果が得られているものの、アンケートの回答率が低いことが、同じく過去5年間の課題であった。今回は、全学において昨年度より3%上昇したものの、回答者の割合は、依然として全体の3割程度にとどまっている。昨年度のFD委員会において、授業改善のためのアンケート調査の結果について総括を行い、回答率50%を目標とする改善計画を確認していたが、実際には目標に遠く及ばなかった。単なる声掛けや心がけのみでは、改善に至らないことが明白になった。学部再編が本格的に始動する来年度より、授業改善のためのアンケート調査の方式や内容、実施方法について、体系的に見直しを検討する必要がある。「授業改善のためのアンケート調査結果に対するフィードバック（教員による回答）」においても、複数の教員から指摘が

なされているが、今後は、① 2 期末のみならず、1 期末の実施を加えた各期末の実施、及び、
 ②授業内での実施による回答率の上昇について本格的に検討を行う必要がある。また、特に
 学部においてシラバスの活用の定着が低いと見られる状況が続いていることについても、シラ
 バスの重要性について、FD研修なども含め、認識を共有する機会を設定することが望ましい。

【別表 1】

名古屋外国語大学 授業改善のためのアンケート調査		
【マーク式質問】	5. とてもそう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. そうは思わない	全授業 対象 備考
【A. 総合評価】		
A - 1	この授業は全体として満足であった。	○
【B. あなた自身について】		
B - 1	この授業には、休まず出席していた。	○
B - 2	この授業には、真剣な態度で受講した。	○
B - 3	この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	○
B - 4	この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	【講義・演習・ICT・専攻言語・複言語・PUT（CELP・専攻言語）のみ】
B - 5	この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。（教科書、参考書等が指定されていない場合は、回答しないで下さい。）	【講義・演習・ICT・専攻言語・複言語のみ】
B - 6	この授業により、次の取り組みのいずれか 1 つ以上について積極的に行うようになった。・聞く・話す・読む・書く	【専攻言語・複言語・PUT（CELP・専攻言語）のみ】
【C. 授業方法について】		
C - 1 - 1	授業の進み具合は適切であった。	○
C - 1 - 2	そうは思わない・あまりそうは思わないを選択した場合は、当てはまるものを選んでください。	4 (早すぎる) 3 (少し早い) 2 (少し遅い) 1 (遅すぎる)
C - 2	教員はわかり易く説明していた。	○
C - 3	授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	○
C - 4	教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	○
C - 5	授業中の私語には適切な処置がとられていた。	○
C - 6	学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	○
【D. 授業内容について】		
D - 1 - 1	授業のレベル（スポーツの場合は運動量等）は、自分にとって適切であった。	○
D - 1 - 2	そうは思わない・あまりそうは思わないを選択した場合は、当てはまるものを選んでください。	4 (高すぎる) 3 (少し高い) 2 (少し低い) 1 (低すぎる)
D - 2	この授業に大変興味を持てた。	○
D - 3	この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	【専攻言語・複言語・PUT（CELP・専攻言語）のみ】
D - 4	この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	【複言語プログラムのみ】
D - 5	この授業では、SA（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。（SA等のいない授業の場合は、回答しないで下さい。）	【ICTプログラムのみ】
D - 6	この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	【保健体育（スポーツ）のみ】
D - 7	この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	【保健体育（スポーツ）のみ】
D - 8	この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	【保健体育（スポーツ）のみ】
【記述式質問】		
1	授業に関する良かった点	
2	授業で改善を求めたい点	
3	その他、意見・要望等があれば自由に記入して下さい。	

【別表 2】

2025 年度 2 期 授業改善のためのアンケート調査に対する教員アンケート

質問 1	「授業改善のためのアンケート調査」における「授業科目別評価結果」をどのように受け止められましたか。
質問 2	授業を実施していく上で、解決すべき課題があれば、具体的にお書き下さい。
質問 3	教育効果を高めるために、先生が特に実施している方法・工夫等がありましたら、具体的にお書き下さい。
質問 4	教員のファカルティ・ディベロップメントについてご意見などがございましたら、ご自由にお書き下さい。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	英米語学科	担当者	今井 康貴
------	-------	-----	-------

1. 調査結果の概要

英米語学科に関連する2025年度2期の調査結果は、6つの科目系列に分類されている。全体の回答数は2,253件、回収率は34.7%である。回答数はいずれも延べ数であり、複数の科目で回答した学生は重複して数えられている。系列別の回答数と回収率は、アカデミックスキルズプログラム106件(23.1%)、英語基幹プログラム(PUTを除く)498件(45.6%)、専攻言語プログラム811件(28.2%)、専門科目群〔学科基盤〕204件(48.6%)、専門科目群〔学科基盤以外〕と教職特別科目等448件(35.0%)、専門ゼミナール186件(49.7%)である。

2. 項目ごとの分析結果

授業満足度を問うA-①は4.4(大学全体平均4.4)で、肯定的回答(「とてもそう思う」「ややそう思う」)は85.0%であった。17項目のうち大学全体平均を上回るのは7項目、下回るのはD-4(複言語で履修した言語の文化への興味)3.7の1項目のみで、残る9項目は同値である。学科としては大学の平均的な水準にある。

特に高いのはC-④(教員の熱意)4.7で肯定的回答92.1%、C-③(授業時間の遵守)4.6で同90.3%であり、教員の授業運営に対する評価は安定している。4点を下回るのはB-③(シラバスの活用)3.7とD-43.7の2項目である。B-③は肯定的回答が60.2%にとどまり、否定的回答が340件と17項目中で最も多い。D-4については、対象811件のうち410件(50.6%)が未答であり、有効回答は401件にすぎない。本学科の専攻言語は英語であり、設問の「複言語で履修した言語」が自らの受講科目に当てはまらなると判断した学生が多かった可能性が高く、この数値をもって授業の質を評価することは適切ではない。

系列間の差は明確である。最も高いのは専門ゼミナールで、A-①4.7(肯定的回答95.7%)、C-④(教員の熱意)4.9、C-②(わかり易い説明)4.8、C-⑥(参加への配慮)4.8と、少人数で双方向型の授業形態の効果が数値に表れている。ただしB-①(出席)は4.2で、6系列中で唯一大学全体平均を下回る。回答の98%が23生と22生以前であり、就職活動等との重複が背景にあると考えられる。

最も低いのはアカデミックスキルズプログラムで、A-①4.1(肯定的回答75.5%)、D-②(興味)3.8、B-5(教科書等の活用)3.8である。他方でB-①(出席)は4.6と6系列中で最も高く、出席状況が良好であるにもかかわらず満足度と興味が低いという組み合わせは、授業内容や進め方と学生の期待との間にずれがあることを示唆する。ただし回収率が23.1%と最も低いため、本年度の数値のみで傾向を断定することはできない。

回答数が最大の専攻言語プログラム(811件)はA-①4.3で、B-4(予習と復習)4.2、B-5(教科書等の活用)4.4、C-⑥(参加への配慮)4.5が大学全体平均を上回る。英語基幹プログラムはA-①4.4で、大学全体平均を下回る項目はない。専門科目群は〔学科基盤〕4.4、〔学科基盤以外〕4.5であり、いずれも大学全体平均と同等以上である。

3. 今後の授業改善に向けて

最大の課題は回収率である。学科全体で34.7%にとどまり、3分の1程度の回答しか得られていない。系列別では専攻言語プログラム28.2%、アカデミックスキルズプログラム23.1%が低く、専門ゼミナール49.7%、専門科目群〔学科基盤〕48.6%が高い。教員アンケートにも、回答者が少なく断定的なことは言えないという趣旨の記述が多数寄せられている。回答者が授業に積極的な学生に偏っている可能性が高く、現状の数値は「良好な評価」というより「良好な評価をした学生の意見」と読む

べきである。授業時間の一部を回答時間として確保すること、実施時期と実施方法を全学で標準化することは検討に値する。

次に、授業外学習とシラバスの活用である。B-③（シラバスの活用）は3.7で、系列別では語学系列で低く（アカデミックスキルズ、英語基幹、専攻言語がいずれも3.7）、専門科目で高くなる（〔学科基盤〕4.0、〔基盤以外〕3.9）という傾向がある。初年次段階で授業内にシラバスを参照する機会を設けることが有効と考えられる。B-4（予習と復習）は学科平均4.1と大学全体平均を上回るが、アカデミックスキルズプログラムと専門科目群〔基盤以外〕ではいずれも3.8にとどまり、この2つの系列に限っては授業外学習の確保が課題として残る。

学生の学力差と履修者数についても指摘がある。教員アンケートには、学生の英語力の差が年々大きくなっており、どのレベルにも満足のいく授業を行うことが難しいという記述や、履修者数が多いという学生コメントへの言及がある。少人数で双方向的な指導が可能な専門ゼミナールで評価が最も高いという本年度の結果とも符合する。クラスサイズの適正化は個々の教員では対応できない事項であり、時間割編成やクラス分けの段階での検討を要する。

FDについては、教員同士が互いの授業を参観できる機会、講義科目におけるレポートや試験の具体的な採点方法の共有、ゼミナール（3年次と4年次）の組み立て方の共有、FD行事の年間スケジュールの事前提示と参加時の報酬の事前周知、といった要望が挙げられている。いずれも授業運営に関する教員間の情報共有を求めるものであり、学科の単位でも対応できる可能性がある。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	フランス語学科	担当者	武井由紀
------	---------	-----	------

1. 調査結果の概要

フランス語学科の全体的な集計結果については、四学部全体の全授業にかかわる集計結果を示す「全体平均」と比べた場合、「シラバスを活用した」については全体平均より0.2ポイント低いものの、「開始時間、終了時間は守られていた」は2023年度の集計結果と同値を示す結果だった。一方で、「満足度」「興味が持てたかどうか」は0.2ポイント、「授業を履修して目標とされている外国語の能力を伸ばすことができた」「履修した言語の文化への興味を持てた」については0.3ポイント、「全体平均」よりもフランス語学科の値がそれぞれ高かった。さらに、「分かりやすさ」、「授業の進度の適切さ」でも、「全体平均」よりフランス語学科の値が0.2ポイント高く、「授業のレベル」もフランス語学科の値の方が0.1ポイント高い結果が示された。これらのことから、今回2025年度の結果としては、前年度とほぼ同様の結果が得られ、総じて高い評価が得られたことが指摘できそうである。

また、系列ごとに「満足度」に注目してみると、「専門ゼミナール」「専攻言語プログラム」ならびに「専門科目群」では全学の「全体平均」よりもフランス語学科の平均の方が0.3ポイント高く、「フランス語PUT」では、全学の「全体平均」よりもフランス語学科の平均の方が0.4ポイント高い数値を示しており、「学科基盤」では学科平均の方が「全体平均」よりも0.1ポイント高いだけではあるものの、昨年度よりも、総じてより良い評価が得られたことが分かる。

2. 項目ごとの分析結果

「専攻言語プログラム」では、「シラバスを活用した」「休まず出席していた」以外、すべての項目において「全体平均」を上回っている。幸いなことに、例年この科目群については非常に好評価を得ており、初習言語としてフランス語を学ぶ学生に対し、学科が一丸となって様々な情報共有をしながら、段階的な履修が実現できるよう、努力と工夫を重ねている結果が良い形で反映され、学生によるこのようなとても肯定的な評価につながったのではないかと考えられる。また、昨年度は、「開始時間、終了時間は守られていた」では、大学全体の平均値よりもフランス語学科の数値が0.1ポイント下まわっていたが、今回は0.1ポイント上まわる結果が得られたため、引き続き開始・終了時間を守りながら、授業運営に努めていきたい。

「専門ゼミナール」については、24年度の結果では、「満足度」が0.4ポイント、「授業の進度の適切さ」が0.3ポイント、そして「興味が持てたかどうか」でも0.3ポイント、学科の数値の方が高かった。これに対し、25年度の結果は「満足度」「授業の進度の適切さ」「興味が持てたかどうか」のいずれにおいても学科の数値が0.3ポイント高い結果が示された。また、「授業レベル」の点では0.5ポイント学科数値が「全体平均」よりも高かった。このことから、「専門ゼミナール」の評価は、前年と大きく変化することなく、引き続き良い授業評価結果が得られていると解釈できる。

「専攻言語プログラム」の一部に位置付けられている「PUT」の結果に着目すると、例年総じて学生の評価は高いものの、25年度は「進み具合の適切さ」「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されて

いた」「授業に大変興味を持てた」において、昨年度以上となる 0.6 ポイントも「全体平均」を上回っていることから、学生が非常に満足している様子が推察されると同時に、教員側の日々の努力の成果が反映されたのではないかと考えている。

3. 今後の授業改善に向けて

2025 年度 2 期の結果を総合的に評価すると、24 年度の結果と比べ、大きな変化が生じることなく、総じて全体的に平均を上回る評価がとて多く得られたことが確認できる。とても喜ばしい結果ではあるが、これに満足することなく、引き続き学科一丸となって学生指導に努めたい。加えて、「学科基盤」については、「満足度」は学科平均の方が「全体平均」よりも 0.1 ポイント高いものの、「授業に大変興味を持てた」では「全体平均」よりも 0.2 ポイント低い評価を示しているため、次年度に向けてこの点を改善できるよう、学科内で情報を共有し、今後の改善に向けて取り組んでいきたいと考えている。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	中国語学科	担当者	小堀慎悟
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

今年度のアンケートの回答者数は383名（2024年度225名）、回収率は33%（2024年度32%）であった。受講者の総数が増加したことで回答者の絶対数は増加したが、回収率は前年度とほぼ変化がなかった。ただし、2023年度の回収率が20%であったことを考えると、前年度に改善した回収率を維持できているとみなすこともできる。これは、前年度以来実施してきた授業内でのアンケート回答の実施といった取り組みが一定程度有効であったことを示しており、今後も引き続きこうした取り組みを継続することで更なる回答率の向上を図る必要がある。

さて、評価結果に注目すると、学科の平均点数としては概ね4点を超えてはいるものの、大変残念なことに全体の平均点数を超える項目は存在しなかった。そうした中でも、特に「専攻言語プログラム」のPUTや「専門ゼミナール」においては、評価結果は総じて全体の平均点数よりも高く、またその他の専攻言語に関する授業においても、一定程度全体の平均点数より高い項目があることから、学生の満足度の高さをうかがうことができる。これらの結果は、専攻言語に関する学科の教育方針、あるいは教員一人一人の授業における創意工夫が相当程度に効果を発揮していることを示している。

一方で、「英語基幹プログラム」や「複言語プログラム」については、相対的にアンケートの回収率が高かったにもかかわらず、評価結果については多くの項目で全体の平均を下回っていた。近年のアンケートでは、複言語（＝英語）についても学生の興味・関心の高さがうかがえただけに、残念な結果となった。

2. 項目ごとの分析結果

評価結果のうち、高評価となった上位3つの項目は、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した。」（4.4点、全体平均4.5点）、B-6「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。・聞く・話す・読む・書く」（4.4点、全体平均4.4点）、C-④「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。」（4.5点、全体平均4.6点）であった。いずれも全体平均を超えているわけではなく、前年度の評価結果（それぞれ4.3点 4.5点 4.6点）と比べても、B-②を除いて下回ってはいるものの、絶対評価としてみれば、教員が熱意をもって授業に取り組み、それを受けて学生が真摯に勉学に励んだ結果、その効果を実感できていることが読み取れる。また、専攻言語プログラムに限定すれば、特にB-6の項目は全体平均を上回っており（4.5点 全体平均4.4点）、ここからも専攻言語教育の効果の高さをうかがうことができる。

一方で、相対的に下位の評価となったのは、B-③「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。」（3.5点、全体平均3.7点）、B-4「この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。」（4.0点、全体平均4.0点）、C-①-1「授業の進み具合は適切であった。」（4.0点、全体平均4.3点）、D-①-1「授業のレベルは、自分にとって適切であった。」（4.0点、全体平均4.2点）の4つの項目であった。

B-③については、前年度も3.2点（全体平均3.7点）と低い評価となっている。これには、専攻言語

の科目を中心として多くの授業が必修となっているために、学生がシラバスを読むことで履修する授業を決定する必要がない、ということが関係していよう。実際に、選択科目となる「専門科目群(基盤以外)」(3.7点、全体平均3.7点)及び「専門ゼミナール」(3.8点、全体平均3.7点)においては、平均以上の点数となっている。とはいえ、シラバスは授業の内容を事前に把握するための重要なツールの一つであるため、今後も積極的にシラバスの重要性を学生に周知する必要があるだろう。

残りの3項目のうち、全体平均との開きがあったC-①-1とD-①-1については、特に言及しておく必要があるだろう。なぜなら、両者は相関関係にあると思われるからである。C-①-1について、「そうは思わない、あまりそう思わない」と答えた36名の学生のうち、9名が「早すぎる」、10名が「少し早い」と回答しており、またD-①-1については、「そうは思わない、あまりそう思わない」と答えた35名の学生のうち、4名が「高すぎる」、19名が「少し高い」と回答していた。すなわち、一部の学生において、授業への理解が追いつかないために進度が早く感じ、それがさらに授業への理解を遠ざけるという悪循環が生じている可能性がある。もっとも、先に高評価の項目についてみたように、多くの学生は授業を通じて学習理解を深めていることは確かである。とはいえ今後は、授業への理解が追いつかないことで学習意欲を低下させる可能性にある一部の学生に対してどのようなアプローチをとるかについて、より重点的に取り組む必要があるだろう。

3. 今後の授業改善に向けて

以上、特に専攻言語を中心として、授業が高い学習効果をあげていることが明らかとなった。一方で、副言語に対する興味・関心の低下や、一部の学生が学習意欲を低下させうる状況が存在することもうかがうことができた。

今後は、これまでの取り組みを維持しつつ、懸念点に対してより積極的な対策をとる必要がある。副言語(＝英語)については、まずは全学的な英語学習のサポート体制について学生に周知することが重要である。また、学習意欲が低下しつつある学生については、より早い段階で関係教員が情報を共有し対応することが望まれる。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	現代英語学科	担当者	吉見かおる
------	--------	-----	-------

1. 調査結果の概要

本学科の授業改善アンケート回収率は昨年度の32%を上回る35%であったが、結果を一般化できる数値とはいえないため、今後も回答者数の改善の工夫が課題となる。全体的に、授業の満足度は4.3と昨年度の4.2より上がっていることは評価できる一方で（全体平均：4.4）、今年も数値の低い項目は「授業に関して予習、復習などを積極的に行った」（学科平均：3.8、全体：4.0）であった（昨年度：3.9）。教員の自由回答欄の項目でも「課題をこなすことの利点、その理解を深める意義を説明していきたい」「授業が自身の将来にどのように関係しているかを理解させる必要がある」「社会に出る前の心構えを具体的にイメージ・実感できるように動画教材や教員の体験談などを盛り込んでいきたい」等、学生の学習意欲を引き出す必要性を訴える意見が散見された。教員側が感じている学生の英語力（学力）の低下も報告されている。これらの点の共通認識と実際の取り組みの工夫が今後の課題である。

2. 項目ごとの分析結果

以下、アンケート項目の中で、全体平均値より低い項目を分析した。

① 専門基礎科目（回収率：15%）：

本科目群は、現代英語の学生に必要な専門知識の基礎を養う「ことばと音声」、「ことばのしくみ」、「ことばと文化」「クリティカルシンキング」、「Intercultural Communication」の5科目から成り、回収率が15%と極めて数値は低いものの、「全体としての満足度」―3.9（全体4.4）、「予習復習などを積極的に行った」―3.3（全体4.0）、「授業のレベルは自分にとって適切であった」―3.8（全体4.2）、「授業に大変興味を持てた」―3.8（全体4.3）という全体平均から大きく下回る結果となっている。これは本学科学生の特長（言語学習、特に英語学習に対する関心は非常に高いが、ことばにまつわる概念・理論の学習になると消極的）を示唆していると推察する。2027年の「英語キャリア学科」への改称を受け、この科目群は2026年度よりこれまでの基礎的な知識の修得に加え、問題意識の育成を目的とした科目が新設された（1年次対象：①「グローバルシティズンシップ入門」および②「AIデータ・デジタル入門」、2年次対象：③「イングリッシュキャリア入門」―2027年より開講）。今後は、①グローバル社会に生きる市民の一員として必要な知識や共有、共感力の養成、②AIの仕組みと活用法を学び、人文学を中心とした多様な分野におけるデータ分析スキルの養成、③英語に関わるキャリア形成に必要となる知識と応用力の養成、を目的とした科目群に衣替えするため、今後はアンケート結果も何らかの変化が生じると推測している。いずれにしても、本学科生の強みと弱点を教員間で共有し、指導につなげていく工夫が必要である（学科教員による初のオムニバス形式の講義科目であるため、教員側も刺激となっている）。

② 英語基幹プログラム（PuTを除く）（回収率：68%）：

回収率が約7割と高く、学生の傾向をおおよそつかむことのできる科目群である。全体平均より数値が下回ったのは、「全体としての満足度」―4.0（全体4.4）、「授業に真剣な態度で受講した」―4.1（全体4.5）、「授業に大変興味を持てた」―3.8（全体4.3）の項目であった。この結果の分析を参照できる資

料が限られているため、学科を超えた学部レベルの英語教育の実態把握が必要となるのかもしれない。

③ Academic Skills (回収率：31%)：

回収率は 31%と低い、「全体としての満足度」—3.9 (全体 4.4)、「授業に大変興味を持てた」—3.5 (全体 4.3) の項目で平均より低い数値が示された。本科目は 2022 年度より学科教員による担当が始まり、当初のアンケートでは概ね平均を上回っていたが、今回の結果を受けて新たな再検討が必要となるかもしれない。現在実施している本学科の指導概要として、大学における学びの基礎となるアカデミック・スキルズ学習だけではなく、学術的な英文に対応できる英語力の基礎固めも含まれている。また、初年次教育の重要性を鑑み、効果的な指導案を模索しながら更新し続け、2026 年度は新たな試みとして、これまで実施してきた図書館連携学習を学科の学生用にカスタマイズする研修を企画した (4 クラスごとに図書館を訪問、5 階多目的ホールにて①30 分講義—図書館司書による図書館利用法の概要説明、②20 分演習—OPAC、ディスカバリーを使用して資料検索を試みる等)。図書館学習の終了後は、携帯から図書館ホームページにアクセスし、各自のペースで館内を巡り歩きながら答える「図書館クイズ」を各自で実施し (約 20 分)、クイズ終了後の残りの時間は多目的教室に戻り、学科独自に作成した「学習確認シート」を使って担当教員による学習の振り返りの時間に充てた (項目：①図書館で利用できる資料とその利用方法を知ることができたか、②資料の探し方を理解し、探すことができたか、③図書館の各階にどのような資料があるか知ることができたか、④大学図書館についての感想と、今後どのように図書館を利用したいかに関する自由記述欄)。その結果、学生たちからは大変前向きなレスポンスが見受けられた (「外国語大学ならではの様々な環境が整っていて使用しないともったいないと感じた。個人でも友達とでも一緒に勉強したい」「自習スペースや N-Base でのくつろぎ学習の空間が完備されていて驚いた。日頃から図書館に親しみたい」「語学に関する本や世界各国の映画も所蔵されていて、大学図書館を積極的に利用していくことで留学にとっても近づくと思う」「図書館に関する知識がほぼゼロの状態でも研修を受け、実際に図書館でできることの多さを知り驚いた。電子資料の扱い方も学びたい」「自分の知りたいことがあったらすぐに足を運びたい」「オープンキャンパスで図書館に入ったことがあるが、大学は高校の図書館と違ってやはり優れている」等)。新たな試みも含めて、今後も教員間で学習内容の模索、改善点の検討を続けていきたい。

3. 今後の授業改善に向けて

今回のアンケート結果により、今年も本学科の授業満足度は全体的に高い傾向にあることが読み取れたが、個別の科目群の数値の低い項目に関しては今後も注意を払い、何らかの工夫と改善が求められる。また、近年の学生の学力傾向も含めて、学びの質を下げるのではなく、むしろ学科として学力の底上げをしていけるような工夫と共通認識を教員間で共有し、各授業内での取り組みに反映していけるような連携を続けていきたい。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	グローバルビジネス学科	担当者	大浜賢一郎・原慎之介
------	-------------	-----	------------

1. 調査結果の概要

全体の回収率は18%となり、昨年度（28%）から再び大きく低下し、著しく低かった2023年度（17%）とほぼ同水準まで戻ってしまった。特に23生以上の回答率が低く、3年生以上の履修が増える専門科目の傾向を正しく評価することは極めて困難である。

全体平均と比較した学科平均の傾向は、授業満足度（A）、受講態度（B）、授業方（C）、授業レベルや関心（D）いずれの項目においてもほぼ一致しており、一部項目は僅かではあるが全体平均を上回った。一方、授業科目の区分別に見ると、PuTを除いた英語基幹プログラムにおいて多くの項目で全体平均を下回っており、注意が必要である。他方、昨年度に課題として指摘したグローバルビジネス科目については改善が見られた。

2. 項目ごとの分析結果

○回収率について

のべ受講者数1,716人に対して310件の回答があり、回収率は18.0%であった。2024年度の28.2%から10ポイント以上低下している。区分別にみると、英語基幹プログラム（PuTを除く）が43%、専攻言語プログラム・Basic Englishほかが27%と比較的高い一方で、専門基礎科目が5%、アカデミックスキルズプログラムおよびPuTが9%、グローバルビジネス科目が11%と、区分によるばらつきが極めて大きい。特にPuTは昨年度91%であったものが今年度は9%にとどまり、経年比較が困難となっている。授業時間内にアンケート回答の時間を必ず設けるなど、区分ごとの実態に応じた取り組みが引き続き必須である。

○全体集計

A（授業満足度）

全体平均、学科平均いずれも4.4ポイントであり、変わらない値であった。ポジティブな回答（「とてもそう思う」「ややそう思う」）は262件で、回答全体の約85%を占めている。

B（受講態度）

Bの各項目について、全体平均との差は±0.2ポイントの範囲にとどまった。

B-③（シラバスの活用）は学科平均3.8ポイントで全体平均3.7ポイントを上回り、2023年度3.4ポイント、2024年度3.8ポイントと改善した水準を維持している。

B-⑤（教科書の活用）についても4.4ポイントと、全体平均を0.2ポイント上回った。一方、B-①（出席）は4.2ポイントと、全体平均を0.1ポイント下回っている。

C（授業方法）

Cの各項目について、全体平均と同程度かやや上回る値であった。C-①-1（進み具合）は4.5ポイントで全体平均を0.2ポイント、C-②（わかり易い説明）およびC-③（開始・終了時間）はそれぞれ0.1

ポイント上回った。

D（授業への関心）

D の各項目について、全体平均とほぼ変わらない値であった。

○区分別

・アカデミックスキルズプログラム

全体平均を 0.4～0.9 ポイント下回る項目が見られた。ただし回答数は 5 件（回収率 9%）にとどまるため、あくまで参考値として扱うべきである。

・英語基幹プログラム（PuT を除く）

回答数 69 件・回収率 43%と学科内で最も回収率が高い区分であるが、多くの項目で全体平均を下回った。A-①（授業満足度）は 4.0 ポイントと全体平均を 0.4 ポイント下回っており、学科平均 4.4 ポイントとの差も大きい。また、授業方法（C）全般で低い傾向が見られる。

D-①-1（授業レベル）3.9 ポイント、D-②（授業への興味）4.0 ポイントと、関心・レベルの面でも全体平均を 0.3 ポイント下回った。D-①-2 の内訳は「高すぎる・少し高い」が 5 人、「少し低い・低すぎる」が 4 人と評価が分かれており、習熟度に幅がある中でのレベル設定の難しさがうかがえる。回答数が相応に確保されている区分であるだけに、今年度の分析における最も重要な課題として受け止める必要がある。

・PuT

多くの項目で全体平均を上回った。一方、B-③（シラバスの活用）が 2.0 ポイント、B-④（予習復習）が 3.5 ポイントと低い値であった。ただし回答数は 4 件（回収率 9%）であり、昨年度の 91%から激減している。経年での比較が困難であるため、来年度に向けて回答機会の確保が必要である。

・その他英語科目（Basic English ほか）

回答数 137 件・回収率 27%。ほぼ全ての項目で全体平均と同程度かこれを上回っており、良好な結果であった。

・専門基礎科目（学科基盤）

A-①（授業満足度）4.7 ポイント、C-②（わかり易い説明）4.7 ポイント、D-②（授業への興味）4.7 ポイントと高い値であった一方、B-③（シラバスの活用）は 3.2 ポイントと全体平均を 0.5 ポイント下回った。ただし回答数は 9 件（回収率 5%）と学科内で最も低く、解釈には注意を要する。

・グローバルビジネス科目（専門科目群）

回答数 79 件・回収率 11%であった。昨年度は多くの項目で全体平均を 0.3 ポイント程度下回っていたが、今年度は A-①（授業満足度）4.4 ポイント、D-①-1（授業レベル）4.2 ポイント、D-②（授業への興味）4.3 ポイントといずれも全体平均と一致し、C-①-1（進み具合）4.5 ポイント、C-③（開始・終了時間）4.7 ポイント、C-⑤（私語への対応）4.4 ポイントは全体平均を上回るなど、明確な改善が見られた。B-③（シラバスの活用）についても 4.2 ポイントと全体平均を 0.5 ポイント上回り、昨年度に続いて良好である。他方、B-⑤（教科書の活用）3.8 ポイント、B-④（予習復習）3.7 ポイントは引き続き全体平均を 0.3～0.4 ポイント下回っており、昨年度から継続する課題である。なお、当該区分は 23 生 37 件、24 生 24 件と上級年次の回答が中心であり、専門科目の実態を一定程度反映しているものと考えられる。

・Cultivating Business Perception in English / Business in English ほか

ほぼ全ての項目で全体平均を大きく上回った。ただし回答数は 7 件（回収率 16%）である。

○教員コメント

- ・全体として、学生が真摯に授業に向き合っているとの受け止めや、説明のわかり易さ・授業運営・教員の熱意といった項目で高い評価が得られたとする肯定的な感想が多かった。一方で、回答数が限られているため、結果の解釈には慎重であるべきとの指摘もあった。
- ・課題としては、学生の興味・関心と授業内容を結び付ける工夫、学修内容が社会に出てからどのように役立つかの理解促進、学生が発言する機会の確保（C-⑥のポジティブ回答率が50%にとどまった例が挙げられている）、学生の実情の把握などが挙げられた。また、回収率の向上と質的なコメントの収集についても改善が求められている。
- ・教育効果を高める工夫としては、双方向の交流の拡大、毎回の小テストによる理解度確認、授業外を含む対話機会の確保、ペアワークやグループディスカッションによる発話機会の設定、習熟度によらず安心して発言できる環境づくり、同一の題材を読解・討論・映像など多様な形式で扱う工夫などが挙げられていた。
- ・FDについては関心を持つ教員が多い一方、非常勤講師については参加に対する報酬や交通費が負担となり参加の妨げとなっているとの指摘があった。

3. 今後の授業改善に向けて

アンケートの回収率について、昨年度は2022年度以前の水準に回復したものの、今年度は再び18%まで低下してしまった。区分間のばらつきが大きく、43%を確保できた区分がある一方で5～9%にとどまる区分もあることから、授業時間内に回答時間を確保する運用が徹底されているか否かが差を生んでいる可能性が高い。学科として、回答時間の確保を全担当教員に改めて周知徹底したい。特に、3年生以上および専門基礎科目・専門科目の回答が乏しい状況が続いており、専門教育の評価に必要なデータが十分に得られていない点は引き続き最大の課題である。

回答内容については、学科平均が全体平均と同水準ないしこれを上回る項目が増えており、学科全体としては概ね良好な結果であったと評価できる。特にグローバルビジネス科目については、昨年度に指摘した多くの項目で改善が見られた点を評価したい。教科書の活用および予習復習は引き続き全体平均を下回っているが、昨年度も述べたとおり、教科書については金額の制約があり、講義で使用したい専門書をテキストとして指定することが難しく、各教員が独自の講義資料を作成している結果であることに留意すべきであろう。予習復習の促進については、授業外学修の課題設定や小テストの活用など、既に一部の教員が実施している工夫を学科内で共有することが有効と考えられる。

他方、英語基幹プログラムについては、一定の回答数が確保されている中で、授業満足度・授業方法・授業への関心の各項目が全体平均を下回っており、優先的に検討すべき課題である。また、教員アンケートでも指摘されているとおり、学生が発言・参加する機会をさらに確保する取り組みについては、学科全体として継続的に進めていく必要がある。

2026 年 8 月提出

授業改善のためのアンケート調査（2025 年度 2 期）－学科分析結果

組織名称	国際教養学科	担当者	根無一信
------	--------	-----	------

1 調査結果の概要

評価項目のうち、平均値から±0.2 以上の開きがある項目の数に着目し、高評価と低評価の科目系列を浮かび上がらせる。結果は以下の表にある通り。

科目系列	学年	[2025 年度] +0.2 以上の項目数 / -0.2 以下の項目数	[2024 年度] +0.2 以上の項目数 / -0.2 以下の項目数
①アカデミックスキルズ	1	8 / 1	3 / 4
②英語基幹プログラム（PUT 以外）	1	2 / 1	0 / 5
③PUT	1	1 / 10	12 / 1
④Basic English、Step-Up English	1, 2	13 / 1	1 / 7
⑤専門基礎科目	1	10 / 1	3 / 9
⑥専門科目	1, 2, 3	1 / 10	8 / 1
⑦LIBERAL ARTS AND GLOBAL STUDIES IN ENGLISH	2, 3, 4	4 / 1	5 / 1

高評価だったのは7つのうち4つ、「①アカデミックスキルズ」「④Basic English、Step-Up English」「⑤専門基礎科目」「⑦LIBERAL ARTS AND GLOBAL STUDIES IN ENGLISH」である。低評価だったのは7つのうち2つ、「③PUT」「⑥専門科目」である。

2 項目ごとの分析結果（※国際教養学科が力を入れている「アカデミックスキルズ」について分析）

これまで低評価の年が多かったアカデミックスキルズについて、好転した理由として考えられるのは、授業内容の約半分を変更したことである。これまで2期のアカデミックスキルズではグループワークは行っていなかったが、25年度から少人数制を活かしたグループワークを多く取り入れることにした。この変更がよい影響をもたらしたと推察できる。実際、受講生から「面白かった」「いい学びだった」という感想が多く寄せられているので、26年度もこの方針を継続したい。

3 今後の授業改善に向けて

高評価の4つのうち①④⑤は24年度に低評価であり、低評価の2つは24年度は高評価である。24年度以前も24年度とほぼ同様の結果であったので、これまでは「PUTと専門科目は高評価で、それ以外は低評価か中程度」を本学科の傾向性として把握していたが、25年度は逆転現象が生じたといえる。その理由について、アカデミックスキルズに関しては上述の通りであるが、他の科目系列については今後要検討である。特にこれまで人気が高かった「PUT」と「専門科目」の暗転の要因究明が急務である。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	グローバル共生学科／センター	担当者	西村
------	----------------	-----	----

1. 調査結果の概要

①学科全体について学科の「平均」と「全体平均」の差が比較的大きい（差が±0.2以上ある）項目を抽出した。

下記1項目において全体平均を上回る（+0.2）。

D-3「この授業を履修して、目標とされている外国語の能力(...)を伸ばすことができた。」

全体平均を下回っている項目（-0.2～0.3）は下記3つであるが、教科書の使用については科目群ごとに差があるため、詳細は②で検討した。

B-3「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。」

B-5「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。」

D-4「この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。」

次に、②①の学科全体の各項目の「平均」を基準とし、②科目群の「平均」に±0.3以上の差がある項目を抽出した（2に列挙）。その結果、下記が指摘できる。

- 教科書活用の評価が平均を下回る科目は、そもそも教科書指定をしていない科目である（アカデミックスキルズ、コース科目）。
- アカデミックスキルズでは、出席、予習・復習など、学生自身の取り組みが全体評価を上回っている。一方、授業の満足度や、開始・終了時間の遵守に対する評価が低く出ている。ただし、満足度について個別の回答を見ると、「あまりそう思わない」の1名を除いて全て「普通」以上に集中している。
- 専攻言語プログラムについては、満足度や教員の説明のわかりやすさが全体を大きく上まわっている。授業の進み具合や参加への配慮も高く、学生のニーズに適切に応えられていることが伺える。
- コース科目（コース共通）では、私語への適切な処置や学生が参加できる配慮に課題が見られる。受講人数の多い講義科目であるため、参加への配慮には限界があるが、私語への処置は改善は必要である。
- コース科目（基盤以外）で開始・終了時間の遵守や授業全体の満足度において、顕著なマイナス幅が記録されている。

2. 項目ごとの分析結果

①学科全体の各項目の「平均」を基準とし、②科目群の「平均」に±0.3以上の差がある項目を抽出した。

1. アカデミックスキルズプログラム（回答率 39%）

- 出席 (B-①: 4.6、差+0.3)
- 予習・復習 (B-④: 4.3、差+0.3)
- 教科書活用 (B-⑤: 3.2、差-1.0)
- シラバス活用 (B-③: 3.3、差-0.4)
- 授業全体の満足度 (A-①: 3.9、差-0.5)
- 開始・終了時間の遵守 (C-③: 4.1、差-0.5)

2. 専攻言語プログラム(PUT 以外) (回答率 69%)

- 授業全体の満足度 (A-①: 4.7、差+0.3)
- 教員の説明のわかりやすさ (C-②: 4.7、差+0.3)
- 授業の進み具合 (C-①-1: 4.7、差+0.4)
- 参加への配慮 (C-⑥: 4.7、差+0.3)

3. コース科目 (コース共通) (回答率 32%)

- 教科書の活用度 (B-⑤: 3.8、差-0.4)
- 私語への適切な処置 (C-⑤: 3.9、差-0.4)
- 学生が参加できる配慮 (C-⑥: 4.0、差-0.4)

4. グローバルメディア科目、コース科目 (回答率 25%)

- 教科書の活用 (B-⑤: 2.9、差-1.3)
- シラバス活用 (B-③: 3.1、差-0.6)
- 開始・終了時間の遵守 (C-③: 3.9、差-0.7)
- 授業全体の満足度 (A-①: 3.9、差-0.5)

今後の授業改善に向けて

①学科全体で外国語(英語)能力の向上についてのポイントが全体平均より高く、②の専攻言語プログラムでも高評価が目立ったことから、学科の選考言語プログラムについては総じて学生の満足が高いことが見受けられる。他の科目群では、(1)開始・終了時間の遵守、(2)私語への適切な処置、(3)学生が参加できる配慮について課題がみられた。(3)については、受講生の多い講義科目が含まれることから工夫のしように限界があるのも事実であるが、(1)(2)については改善を心がける必要がある。なお、①学科全体で全体平均を下回った項目に D-4「この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた」があるが、学科の授業構成や教員の配置上、複言語との関連づけは難しい現状にある。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	世界共生学科／センター	担当者	西村
------	-------------	-----	----

1. 調査結果の概要

①学科全体について学科の「平均」と「全体平均」の差が比較的大きい（差が±0.2以上ある）項目を抽出した。

下記4項目において全体平均を上回り（+0.2）総じて他学科と遜色ない適切な授業運営がなされていると評価できる。

C-①-1 授業の進み具合は適切であった

C-② 教員はわかり易く説明していた

C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた

D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった

全体平均を下回っている項目（-0.3）は下記1つであるが、教科書の使用については科目群ごとに差があるため、詳細は②で検討した。

B-⑤ この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。

次に、②①の学科全体の各項目の「平均」を基準とし、②科目群の「平均」に±0.3以上の差がある項目を抽出した（2に列挙）。その結果、下記が指摘できる。

- PuT(英語基幹プログラム)、専攻言語プログラムでは、シラバス活用が低い一方、教科書の活用度は高い傾向にある。
- リージョナルスタディーズではわかりやすさ、学生が参加できる配慮、全体的な満足度が学科全体を下回っている。ただし個別回答を見ると、これらについて「とてもそう思う」「そう思う」「普通」が大半を占めており、「そう思わない」「あまりそうは思わない」は1～2名であるため、進み具合（「早い」「やや早い」が各3名）を除いて、さほど問題視すべき要素はないと考えられる。
- 専門ゼミナールでは、主体的な参加や教員の熱意において非常に高い評価となっているが、回答数が3名と非常に少ないため、極端な数値が出ている点に留意が必要である。

2. 項目ごとの分析結果

①学科全体の各項目の「平均」を基準とし、②科目群の「平均」に±0.3以上の差がある項目を抽出した。

1. PuT(英語基幹プログラム) (回収率 31%)

B-③ シラバスの活用：平均 2.9 (学科全体 3.6 から -0.7)

- C-③ 開始・終了時間の遵守：平均 4.5 (学科全体 4.8 から -0.3)
C-⑤ 私語への適切な処置：平均 4.1 (学科全体 4.4 から -0.3)
D-①-1 授業レベルの適切さ：平均 4.1 (学科全体 4.4 から -0.3)

2. 専攻言語プログラム (回収率 44%)

- B-③ シラバスの活用：平均 3.3 (学科全体 3.6 から -0.3)
B-⑤ 教科書・参考書の活用：平均 4.2 (学科全体 3.9 から +0.3)

3. リージョナルスタディーズ (回収率 45%)

教員の進行や配慮、全体的な満足度が学科全体を下回っている。

- B-③ シラバスの活用：平均 4.1 (学科全体 3.6 から +0.5)
C-①-1 授業の進み具合：平均 4.0 (学科全体 4.5 から -0.5)
C-⑥ 学生が参加できる配慮：平均 4.0 (学科全体 4.5 から -0.5)
A-① 授業全体の満足度：平均 4.1 (学科全体 4.5 から -0.4)
C-② 教員の説明のわかりやすさ：平均 4.3 (学科全体 4.6 から -0.3)

4. グローバルメディア科目、コース科目 (回収率 27%)

- B-③ シラバスの活用：平均 4.0 (学科全体 3.6 から +0.4)
B-⑤ 教科書・参考書の活用：平均 3.4 (学科全体 3.9 から -0.5)

5. 専門ゼミナール (回収率 12%)

- B-③ シラバスの活用：平均 4.7 (学科全体 3.6 から +1.1)
B-④ 予習・復習の積極性：平均 5.0 (学科全体 4.0 から +1.0)
B-⑤ 教科書・参考書の活用：平均 3.0 (学科全体 3.9 から -0.9)
C-⑤ 私語への適切な処置：平均 5.0 (学科全体 4.4 から +0.6)
B-② 真剣な態度での受講：平均 5.0 (学科全体 4.5 から +0.5)
C-①-1 授業の進み具合：平均 5.0 (学科全体 4.5 から +0.5)
C-⑥ 学生が参加できる配慮：平均 5.0 (学科全体 4.5 から +0.5)
C-② 教員の説明のわかりやすさ：平均 4.3 (学科全体 4.6 から -0.3)

3. 今後の授業改善に向けて

①②の検討を通じて、総じて他学科と比べて大きな差異はなく、適切な授業運営がなされていると考えられる。マイナス差が大きく出た教科書・参考書については「未答」も多く、教科により教科書を指定していない場合もあるため、特に改善を要するものではないと思われるが、参考書については、シラバスに記載していても実際には活用されていないということも大いに考えられるため、授業内容と関連づけつつ活用を促す試みがあるとよい。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	世界教養学科	担当者	平山陽洋
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

[1] 回収率

- 全体の回収率が30%(受講生数延べ2,001人に対し回答者延べ609人)であり、高いとはいえない。前回(2024年度2期)の38%から、さらに低下している。Put回収率のみ、前回67%に改善されたのを引き継ぎ、今回も68%と高い。
- 学科科目では、「専門ゼミナール」「コース科目」が全体平均よりもやや高く、「専攻言語プログラム」が全体平均並み～やや低い。ただし、それぞれの科目の回収率を考えると、回収率45%の「コース科目」を除き、正確な評価とするには難がある。

[2] 授業評価

- 学部科目の「ブリッジ科目(1年次科目)」は、これまでの傾向を引き継ぎ、全体平均を下回る項目が多い。ただし、回収率が低いため、正確な評価とするには難がある。
- 全学プログラム科目では、「PuT」が全体平均よりも高く、「英語基幹プログラム(PuTを除く)」が全体平均並みに高く、「アカデミックスキルズプログラム」は全体平均よりも低い。回収率68%の「PuT」は学生全体の感想を相当程度反映していると考えられるが、それ以外は、回収率を考えると、正確な評価とするには難がある。

2. 項目ごとの分析結果

[1] 専門ゼミナール

- 回収率33%(受講者数40人に対し回答者13人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。回答者が13人と少ないため、1人の回答で平均値が大きく動く点にも留意が必要。
- 教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)、授業で得たものの評価(D質問群)は、全般的に高い(「教員の熱意」4.9、「積極的参加への配慮」4.8など)。D質問群は、「授業のレベル」「授業への興味」とも、全体平均より0.2～0.3ポイント高い。
- C質問群のうち、「開始時間、終了時間が守られていたか」が3.8で、全体平均より0.8ポイント低い。「私語に適切な処置がとられたか」も、若干、低い。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)は、全般的に高め。ただし、「指定された教科書、参考書を活用したか」が3.7で、全体平均より0.5ポイント低い。

[2] コース科目(2～4年次科目)

- 回収率45%(受講生数314人に対し回答者142人)であり、学生全体の感想を一定程度反映していると考えられる。前回の21%から大幅に上昇した。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C質問群)、授業で得たものの評価(D質問群)のいずれも、全般的に高め(4.3～4.5が多い)。全体平均並み～若干高い。
- B質問群のうち、「シラバスを活用したか」は4.1で、全体平均より0.4ポイント高い。他方、「指定された教科書、参考書を活用したか」は3.7で、全体平均より0.5ポイント低い。
- 前回で全体平均並みまで上昇した「学生の積極的参加への配慮」は今回も4.4で、全体平均並みを維持。

[3] ブリッジ科目(1年次科目) ※ 世界教養学部科目

- 回収率33%(受講生数113人に対し回答者37人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。
- 従来ほどの低さではないものの、依然として、全体平均を下回る項目が多い。全体としての満足度、授業で得たものの評価(D質問群)の「授業のレベル」「授業への興味」は、いずれも全体平均より0.3ポイント低い。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B質問群)のうち、「休まず出席したか」「シラバスを活用したか」は全体平均より高い一方、「予習、復習を積極的に行ったか」が3.5(全体平均より0.5ポイント低い)、「指定された教科書、参

考書を活用したか」が3.2(同1.0ポイント低い)と、低い。

- 教員の授業の内容や運営に対する評価(C 質問群)のうち、「学生の積極的参加への配慮」が3.7(全体平均より0.7ポイント低い)、「私語に適切な処置がとられたか」「開始時間、終了時間が守られていたか」が、それぞれ、全体平均より0.5ポイント低い。

[4] 専攻言語プログラム

- 回収率24%(受講生数1,017人に対し回答者243人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。前回の41%から相当程度低下した。ただし、1、2年次生の回答者(延べ190人)が回答者の大半を占め、1、2年次学生の感想を、一定程度反映していると想定されうる。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B 質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C 質問群)は、全般的に高め(4.2~4.6が多い)。全体平均並み。B 質問群のうち、「シラバスを活用したか」の評価が、若干、低い。
- 授業で得たものの評価(D 質問群)のうち、「授業への興味」が4.0で全体平均より0.3ポイント低く、「複言語で履修した言語の文化への興味」が3.6で全体平均より0.5ポイント低い。

[5] アカデミックスキルズプログラム

- 回収率15%(受講生数100人に対し回答者15人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B 質問群)は、全般的に高め。「休まず出席したか」「シラバスを活用したか」は、全体平均より0.4ポイント高い。ただし、「指定された教科書、参考書を活用したか」は3.5で、全体平均より0.7ポイント低い。
- 教員の授業の内容や運営に対する評価(C 質問群)は、全般的に、全体平均を下回る(4.0前後が多い)。とくに「開始時間、終了時間が守られていたか」が3.8で、全体平均より0.8ポイント低い。
- 授業で得たものの評価(D 質問群)は、高いとはいえない。「授業への興味」は3.9で、全体平均より0.4ポイント低い。

[6] 英語基幹プログラム(PuTを除く)

- 回収率28%(受講生数314人に対し回答者89人)であり、学生全体の感想を反映しているとはいえない。前回の35%から相当程度低下した。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B 質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C 質問群)、授業で得たものの評価(D 質問群)のいずれも、全般的に高め(4.2~4.5が多い)。全体平均並み。
- C 質問群のうち、「私語に適切な処置がとられたか」の評価が4.0で、全体平均より0.3ポイント低い。

[7] PuT

- 回収率68%(受講生数103人に対し回答者70人)であり、学生全体の感想を相当程度反映していると考えられる。
- 学生自身の授業への取り組みに対する評価(B 質問群)、教員の授業の内容や運営に対する評価(C 質問群)、授業で得たものの評価(D 質問群)のいずれも、全般的に高い(4.5以上が多い)。全体平均より、若干、高い。D 質問群では、「目標とされている外国語の能力を伸ばすことができた」が4.6で、全体平均より0.3ポイント高い。
- B 質問群のうち、「シラバスを活用したか」が3.2で、全体平均より0.5ポイント低い。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際日本学科	担当者	マルシャレンコ
------	--------	-----	---------

1. 調査結果の概要

国際日本学科に関するアンケート調査結果の概要及び各科目系列に対する各回答数・回答率について以下に示す。

- 1) 2025年度2期における本学科生による回答率が31%となり、依然として比較的低いが、28%だった前年度と比較するとわずかながら上昇した。今回のアンケート調査では、受講者数1,346名に対して回答数が415件であった。25生（当時1年次）の回答者数が176件、24生（当時2年次）が153件、23生（当時3年次）が73件、22生（当時4年次）以前が8件、そして「その他」が5件という順になっている。依然として、上級学年になればなるほど学生による回答率が下がり、引き続き改善の検討が必要である。
- 2) 全体的に見ると、授業に対する学科生の満足度の平均が4.2となっており、全体の数値（4.4）をわずかに下回っているが、概ね比較的高いと言える。
- 3) 科目系列別の回答率を見ると、以下のとおりである。
 - ・アカデミックスキルズプログラム：受講者数61名に対して回答数が15件（回答率：25%）
 - ・英語基幹プログラム（PuTを除く）：受講者数176名に対して回答数が90件（回答率：51%）
 - ・複言語プログラム：受講者数215名に対して回答数が71件（回答率：33%）
 - ・専攻言語プログラム／専門科目：受講者数583名に対して回答数が154件（26%）
 - ・日本語教育プログラム／教職特別科目／コース科目：受講者数300名に対して回答数が84件（28%）
 - ・国際日本ゼミナール：受講者数11名に対して回答数が1件（9%）

2. 項目ごとの分析結果

本節では、回答率が比較的高かった科目系列として、①英語基幹プログラム（PuTを除く）（回答率51%）、②複言語プログラム（回答率33%）、③専門科目群（基盤以外）（回答率28%）を取り上げ、その調査結果について詳述する。

① 英語基幹プログラム（PuTを除く）：回答率51%

授業の全体に対する満足度（A-①）が4.1で、全体平均の4.4を少し下回っている。なお、前年度のアンケート結果同様、授業の進み具合（C-①-1）、教員による説明のわかりやすさ（C-②）、教員の授業への熱意（C-④）等の項目が比較的高く評価されており、「普通」との回答がある数あるものの、「とてもそう思う」や「ややそう思う」の回答が多い。また、D-②（「この授業に大変興味を持った」）に対して、43件が「とてもそう思う」、23件が「ややそう思う」、21件が「普通」との回答で、また平均が4.2となっているため、概ね満足度が高いと言えよう。一方、前年度同様、上記D-②を除き、Dの項目群に

対してすべてが未回答であり、授業での学びがどれだけ学生の英語能力向上につながったと思っているかは不明である。さらには、回答率が 51%として、受講者数の半分以上をわずかに上回ったことも、引き続き注視すべき課題であると言えよう。

② 複言語プログラム：回答率 33%

当プログラム科目に対する回答率が 33%と比較的低いが、受講者数 215 名に対して、71 件の回答が得られた。全体の満足度は 4.2 となっており、全体平均の 4.4 を少し下回っている。本学科では、複言語が英語と指定されているため、英語以外の言語科目を履修した学生がいるものの、回答の多くが英語科目に対するものであると推測できる。語学の授業であるため、とりわけ質問 B-6（「この授業により、次の取り組みのいずれか 1 つについて積極的に行うようになった：聞く・話す・読む・書く」）に対する回答を取り上げたい。この質問に対して「とてもそう思う」の回答が 29 件、「ややそう思う」が 28 件、「普通」が 14 件だったため、4.2 という比較的高い満足度に繋がったと言えよう。また、授業の「進み具合の適切さ」について「そう思わない」と「あまりそう思わない」と回答した学生 2 名のうち、1 名は「早すぎる」、もう 1 名は「遅すぎる」と回答しているため、本プログラムの科目において、進み具合は概ね適切である様子が窺える。一方、上記「英語基幹プログラム」同様、複言語プログラムについても教員による説明（C-②）、授業に対する熱意（C-④）、学生による積極的な参加への配慮（C-⑥）が概ね高く評価されている。

③ 日本語教育プログラム／教職特別科目／コース科目：28%

本学科では、この科目群には「コース科目」等、日本語・日本文化に焦点を当てた科目が多く含まれており、本学科の学生がより専門的な知識を身につける科目群である。そこで、4.5 という高い満足度に注目したい。この満足度は全体平均（4.4）をわずかながら上回っている。質問カテゴリ C のうち、この科目群についても教員による説明（C-②）、授業に対する熱意（C-④）、学生による積極的な参加への配慮（C-⑥）がかなり高く評価されている。

一方、改善が必要な要素として、質問 C-⑤の「授業中の私語には適切な処置がとられていた」かに対して、「そう思う」（43 件）と「ややそう思う」（17 件）を合わせると過半数を占めるものの、「普通」が 14 名、「あまりそう思わない」が 9 名、「そう思わない」が 1 名という比較的高い回答数も目立つ。この問題は、前年度のアンケート分析結果においても取り上げられており、今後も教員によるさらなる工夫が必要だと言える。

3. 今後の授業改善に向けて

本学科生によるアンケートを見ると、満足度が全体平均をわずかに下回っているが、概ね同等の高い水準にあると言える。特に、改善の余地はまだあるものの、教員に対する評価（特に、教員による説明（C-②）、授業に対する熱意（C-④）、学生による積極的な参加への配慮（C-⑥））は比較的高い。さらに、「コース科目」といった重要な科目カテゴリにおいて、この満足度の高さがなおさら目立つ。一方、満足度が低い項目も少々あるが、それは学生が真面目に授業に取り組んでいることの様子が窺える。

ところが、回答率が低いことは、依然として引き続き取り組むべき課題と言えよう。前年度のアンケート（28%）よりわずかに上昇したが（31%まで）、さらなる回答率の向上に向けて改善の検討が必要である。これについて、教員によるコメントにおいても低い回答率が問題視されており、授業の質を向上させるためにはやはり、繰り返しになるが、回答率を上げることが不可欠であり、大学全体としてその対

策を検討すべきだと言えよう。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	言語教育開発センター	担当者	上田 功
------	------------	-----	------

1. 調査結果の概要

今回のアンケート調査対象の英語科目は、PLP 英語を除いて、PUT とそれ以外の科目に分かれている。これらに関して、特に学生の満足度と授業のレベルにフォーカスして全体を概観した。また外国語学部では英米語学科とそれ以外の学科の違い、さらに世界教養学部においては、世界教養学科と国際日本学科間の違いにも注目し、さらに外国語学部と世界教養学部の学部間の差異にも注目するようにした。

PLP 英語については、多くの学生が専攻言語の学習に時間をとられ、英語履修が負担になっているという過去の指摘に鑑みて、特に授業の進捗の速さと難易度を重点的に見ることにより、本当に負担になっているかを検証しようと試みた。また教員の個別のコメントは参考にとどめた。

2. 項目ごとの分析結果

最初に PUT を取り上げる。PUT は学部、学科を問わず、満足度が非常に高く、また授業の進捗や難易度も適切であることがわかった。本科目はこれまでも、また改組後も、本学の看板科目であるので、現在の運営方針が妥当とであるということが数字に表れており、喜ばしい。PUT 以外の CELP 科目であるが、これらも概して満足度は高く、また授業の進捗と難易度も適切であるという結果が出ている。上で挙げた学部や学科間の差異も、統計的に有意なほどには見られず、これは各科目のコーディネーターの努力が実った結果であるといえよう。

次に PLP 英語であるが、懸念されたフランス語、中国語、国際日本学科の加重的負担は、少なくとも数字からはうかがえず、満足度も高く、進捗、難易度も適切であるとの結果を得た。

3. 今後の授業改善に向けて

上で述べたように、PUT を含む CELP 科目、PLP 英語は概して適切に運用されており、根本的な改善の必要はないので、各科目において、さらに教授項目や教授法などの議論を重ねて、改組後に備えることが望まれる。また教員の懸案事項として、生成 AI との共存があり、これを真剣に考える必要がある。もっとも、これは全学的な問題でもあるので、全学の教務に関する方針や FD 活動とも歩調を合わせて議論を進めていく必要があろう。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	教養教育推進センター	担当者	甲斐清高
------	------------	-----	------

1. 調査結果の概要

教養教育推進センター(CLAD)提供の科目群のうち、ICT プログラム、および、世界教養プログラム応用科目のアンケート結果を対象に分析する。

ICT プログラムについては、回答者数 280 名（回収率 25%）、世界教養プログラム応用科目については、回答者数 352 名（回収率 12%）であった。

2. 項目ごとの分析結果

ICT プログラム

全体的に 2024 年度 2 期の調査結果と比較して、0.1～0.3 ポイントの向上となっている。

受講生が特に多い「データサイエンス A」において、受講者アンケート結果と担当教員からの意見を反映して、2025 年度より共通テキストを受講生のレベルに相応しいものに変更した。この効果により、D-①-1「授業のレベルは、自分にとって適切であった」のポイントが上がっているものと思われる。

C-④「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」も 0.3 ポイント上がっているので、担当教員が熱心に取り組んだことも多くの項目でのポイント向上に影響しているのだろう。

一方、B-4「この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった」は昨年度から変わらず 3.5 と低い。授業レベルの適正化に加えて、積極的に予習・復習するように受講生を導くことも必要である。今年度から、「データサイエンス A」全クラスにおいて確認テストを実施することにした。受講生に普段から予習や復習を行わせることを目的とした取り組みであり、この効果に期待したい。

世界教養プログラム応用科目

全体的に大学全体の平均と近い結果であり、概ね高い評価が得られていると思われる。

「B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった」については、3.7 と平均より低い。科目の多くがオンライン授業であることが、この値を低くしていると思われる。実際は、予習・復習を促すように工夫している授業もあるが、他の対面授業ほどは予習・復習をしている意識が高くないのかもしれない。来年度から対面授業も増えるため、この項目について注視していきたい。

C-⑤「授業中の私語には適切な処置がとられていた。」および C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるように配慮されていた」が、少し平均を下回っている。私語への適切な処置に関しては、授業がオンラインで実施されている点を考慮すると、この質問への回答が平均を下回っているのは当然であり、特に問題はない。学生が積極的に参加できるように配慮しているかどうかについても、応用科目については、クラスサイズが非常に大きく、かつオンラインで実施されている点を考えると、平均を下回るのはやむを得ない部分もあるだろう。それでも 4.0 の値を示しているのは、むしろ評価に値すべきだと思える。オンラインでの授業であるにもかかわらず、C-④「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」や、D-②「この授業に大変興味を持てた」等について、大学平均と同じ高い数値を示していることを考えると、担当教員の熱心な取り組みが伝わっていることが窺え、良い結果だったと言える。

3. 今後の授業改善に向けて

ICT プログラム

授業担当者打ち合わせ会にてアンケート結果を共有して、授業内容や進め方について検討していきたい。

世界教養プログラム応用科目

クラスサイズの大きいオンライン授業においては、少人数の対面授業よりも、積極的に授業に参加している実感が小さくなり、また、予習・復習への意識も小さくなることは、想定内ではあるが、実際のところ、個々の教員は学生が授業に参加できるように、また、予習・復習を促すように、工夫を凝らしている。学生の参加意識を配慮しながら、引き続き満足度の高い授業を目指していきたい。また、今後、対面授業が増えていくにあたって、アンケート結果がどのように変化するのか注視していきたい。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	教職センター	担当者	大橋保明
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

「〔外・現・教〕教職専門科目」群の授業評価アンケートの実施概要は、回答数 321 名、受講者数 896 名、回収率 36%であった。

「A－①全体としての満足度」についての項目は、前年度（2024 年度）の 4.3 から変化はなく、全体平均と同水準であった。全体平均を上回った項目は、「B－①授業への出席」（+0.1）、「C－①－1 授業の進み具合」（+0.1）、「C－②教員の説明」（+0.1）、「C－③授業の開始・終了」（+0.1）、「C－④教員の熱意」（+0.1）、「D－①－1 授業レベルの適切さ」（+0.2）の 6 項目で、全体平均を下回った項目は、「B－②授業受講態度」（－0.1）、「B－4 授業の予習・復習」（－0.3）、「B－5 教科書の活用」（－0.4）、「C－⑤私語への対応」（－0.1）の 4 項目であった。

2. 項目ごとの分析結果

上記のとおり、全体平均から±0.3 ポイント以上の項目として、「B－4 授業の予習・復習」（－0.3）、「B－5 教科書の活用」（－0.4）の 2 項目が該当した。特に、後者については、前年度（2024 年度）も全体平均を 0.5 ポイント下回っており、早急な改善が求められる。

前年度（2024 年度）から今年度（2025 年度）にかけて 2 年連続で全体平均を上回った項目は、「B－①授業への出席」、「C－④教員の熱意」、「D－①－1 授業レベルの適切さ」の 3 項目で、2 年連続で全体平均を下回った項目は、「B－4 授業の予習・復習」、「B－5 教科書の活用」の 2 項目であった。前年度の課題として指摘した「C－⑥積極的な授業参加への配慮」（－0.2）については、全体平均と同等まで改善したが、改善要因を特定できていないため、引き続き注視していきたい。

3. 今後の授業改善に向けて

継続的な課題であった回答率の向上については、各科目での呼びかけを強化したことにより、前年度（2024 年度）19%から今年度（2025 年度）36%へと大幅に改善した。教職 4 年次 2 期の「教職実践演習（中高）」と「教育実習Ⅰ・Ⅱ」がいずれもアンケート対象外のため、22 生以前（4 年生）の回答数 32 の改善は難しい。次年度は、下級生を中心にポータル連絡や掲示等も活用して回答率 50%を目指したい。

昨年に続き明確な課題として浮かび上がった「B－5 教科書の活用」については、指定教科書の適切性や活用方法を再点検し、必要に応じて指定教科書等の再選定や学習計画の見直し（シラバスの修正等）を要請するなどして、教材や ICT を有効活用した学習者中心の授業展開を図っていきたい。

教職科目全体の底上げには、1 期開講科目の授業評価結果の分析・考察も不可欠である。FD 委員会において、学部再編後の授業評価実施計画等について再検討をお願いしたい。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	大学院国際コミュニケーション 研究科	担当者	鈴木 茂
------	-----------------------	-----	------

1. 調査結果の概要

回答率は博士前期課程1年生を中心に約50%であった。大学院博士前期課程の場合、2年次にはほとんど授業を履修しないので、やや物足りないものの、全体の傾向は把握できる有効な数字であると言える。なお、A-①～D-②まで回答されている。D-③以下は大学院学生には当てはまらない質問項目なので回答はない。

博士後期課程生は個別指導となっているため、回答者はない。

2. 項目ごとの分析結果

○授業内容と満足度

授業のレベルや進行は適切と評価されており、履修者の満足度も高い。

出席も良好である。

シラバスの活用、教科書の利用、予習・復習など、ほぼすべての学修に関する質問項目で高い評価を受けている。

○教員の指導と授業運営

教員がわかりやすい授業を心がけ、時間管理や履修学生への配慮も良好である。

3. 今後の授業改善に向けて

学生アンケートに関連する事項については、現状で特に問題はない。

問題があるとすれば、担当者不在のために開講されていない科目が目立つ点が挙げられる。

2025年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際日本語教育インスティテュート	担当者	村上かおり（日本語） 櫻井省吾（GJSC）
------	------------------	-----	--------------------------

1. 調査結果の概要

2025年度2期に国際日本語教育インスティテュート(IJLE)として開講した日本語コースは週8コマの集中コース6つ、週4コマの半集中コース6つ、日本語能力試験対策コース（各週1コマ）2つであり、コマ数は合計74コマであった。これらの授業は対面授業で行われ、110名が受講した。GJSCコースは5分野に分かれ、①ビジネス系2コース、②社会系4コース、③文化系6コース、④言語系2コース、⑤特殊講義4コースの計18コースを開講し、すべて対面授業で行われた。

2. 項目ごとの分析結果

● 日本語科目

14項目の質問（各5点満点）の全てにおいて平均値4.1以上を得て、そのうち7項目が4.5以上であった。これは概ね良い結果だと言ってよいであろう。

特に「B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」は4.9、「C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」と「C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」は4.8、「C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」は4.7、「C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた」は4.5など、大変良い結果を得た。

また受講生が自らの学習経験を「B-② この授業には、真剣な態度で受講した（平均値4.6）」、「D-② この授業に大変興味を持てた（平均値4.5）」と振り返っていることは担当教員としてとても喜ばしいことである。

これらによって「A-1 この授業は、全体として満足であった」（平均値4.4）と高い評価を得ることができた。IJLEでは多くの授業を非常勤教員に頼っているが、上記の結果は専任教員、非常勤教員が皆、日本での日本語と日本文化習得への期待と希望を持って留学してきた学生たちの要望に応えるために尽力した結果だと言えよう。今後も受講生からこのような高い満足度を引き出す授業を継続できるように努力を続けたい。担当教員の方々の弛まぬ努力と工夫に深い感謝の意を表すものである。

● GJSC 科目

14項目の質問（各5点満点）において、平均値4.1以上を得た項目数は12項目、平均値以下だったものは2項目のみであった。これも概ね良い結果だと言ってよいであろう。

特に「C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」と「C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」は4.6と高い評価を得た。教員の熱意ある授業が相乗効果を生み、学生も「B-② この授業には、真剣な態度で受講した」を4.5と高く評価した。GJSCの科目は様々な学部所属の教員が、それぞれの学部での担当科目に加えて教えているが、それにもかかわらず真剣に授業に取り組んでいることが示唆されている。

平均値を下回った項目は、「B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」が3.7、「B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」が4.0であった。前者に関しては、国内学生の回答が占めていることが推察される。GJSCを履修登録する際、交換留学生はシラバスで科目内容を確認

して履修登録をするが、国内学生の多くはGJSCの科目（留学生との共修授業）であれば、科目内容に関わらず履修しているケースが多々ある。また、後者に関しては、GJSCの性格上（国内学生との共修授業）授業レベルを多少低くし、国内学生が英語で授業についていけるようにする必要があることが影響しているのではないかと思う。

3. 今後の授業改善に向けて

● 日本語科目

協定校数の増加と共にこれからも留学生数の増加が期待される。今後も受講生の日本語力伸長と満足度の向上を目指し、授業の質の更なる向上を目指した教育の実施に力を注ぎ続けたい。

授業の改善からはやや離れるが、今回のアンケートでは回収率が77%と、前回調査（24%）から大きくパーセンテージを伸ばすことができた。これは調査への協力を繰り返し促したことが功を奏したと考える。今後もさらに多くの受講生からのフィードバックを得て授業の改善に生かすことができるように、インスティテュート内での告知を強化したい。

● GJSC 科目

近年の傾向として、日本語科目を取らずGJSC科目のみ履修する学生が増えているため、GJSCの科目を充実させることが課題の一つである。また、GJSC科目は交換留学生と国内学生が英語で授業を受ける「共修授業」であるため、各教員がそのprincipleを理解し、協働作業を通して学びあうクラス運営を徹底する必要がある。GJSC科目は様々な学部の教員が担当しているが、IJLEには教務委員がいないため、GJSC科目の質のコントロールを誰がどのように管理していくかも大きな課題である。

2025年度2期集計区分別評価結果

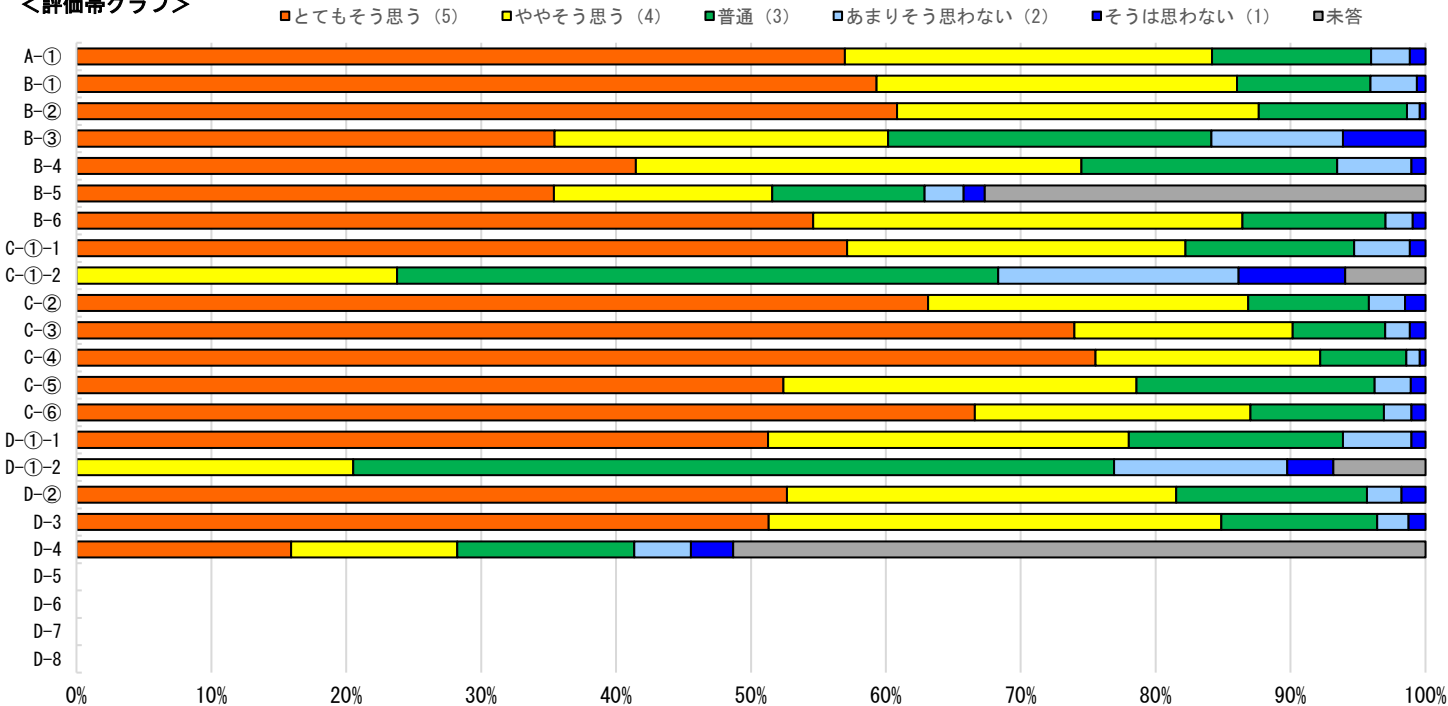
集計単位	学科
集計名称	英米語・英語コミュニケーション専攻

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	1,175	---	---
24生	435	---	---
23生	167	---	---
22生以前	128	---	---
その他	5	---	---
不明	0	---	---
合計	1,910	5,847	33%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	1,088	520	225	55	22	0	4.4	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	1,133	510	189	66	12	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	1,162	512	210	18	8	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	677	472	458	186	117	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	792	631	362	105	20	0	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	676	309	216	55	30	624	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	350	204	68	13	6	0	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	1,091	479	239	79	22	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		24	45	18	8	6		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	1,206	453	171	51	29	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,413	309	131	35	22	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,443	318	122	19	8	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	1,001	500	337	51	21	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	1,272	390	189	39	20	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	979	511	303	97	20	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		24	66	15	4	8		
D-② この授業に大変興味を持てた。	1,006	551	270	49	34	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	329	215	74	15	8	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	102	79	84	27	20	329	3.7	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



2025年度2期集計区分別評価結果

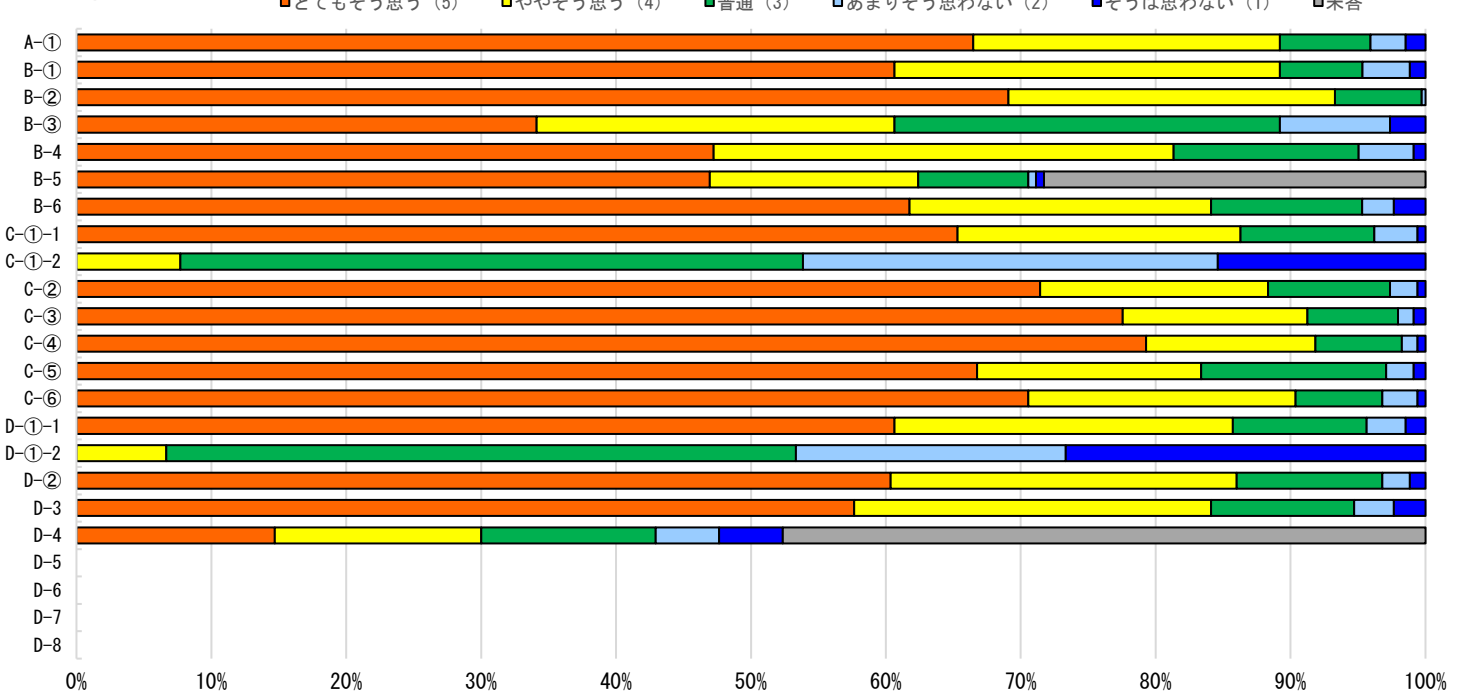
集計単位	学科
集計名称	英語教育専攻

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	255	---	---
24生	56	---	---
23生	29	---	---
22生以前	3	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	343	655	52%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	228	78	23	9	5	0	4.5	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	208	98	21	12	4	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	237	83	22	1	0	0	4.6	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	117	91	98	28	9	0	3.8	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	162	117	47	14	3	0	4.2	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	161	53	28	2	2	97	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上に ついて積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	105	38	19	4	4	0	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	224	72	34	11	2	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		1	6	4	2	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	245	58	31	7	2	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	266	47	23	4	3	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	272	43	22	4	2	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	229	57	47	7	3	0	4.5	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	242	68	22	9	2	0	4.6	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	208	86	34	10	5	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		1	7	3	4	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	207	88	37	7	4	0	4.4	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力 （話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力の いずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことが できた。	98	45	18	5	4	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した 言語の文化への興味を持つことができた。	25	26	22	8	8	81	3.6	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による 授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・ 増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが 好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



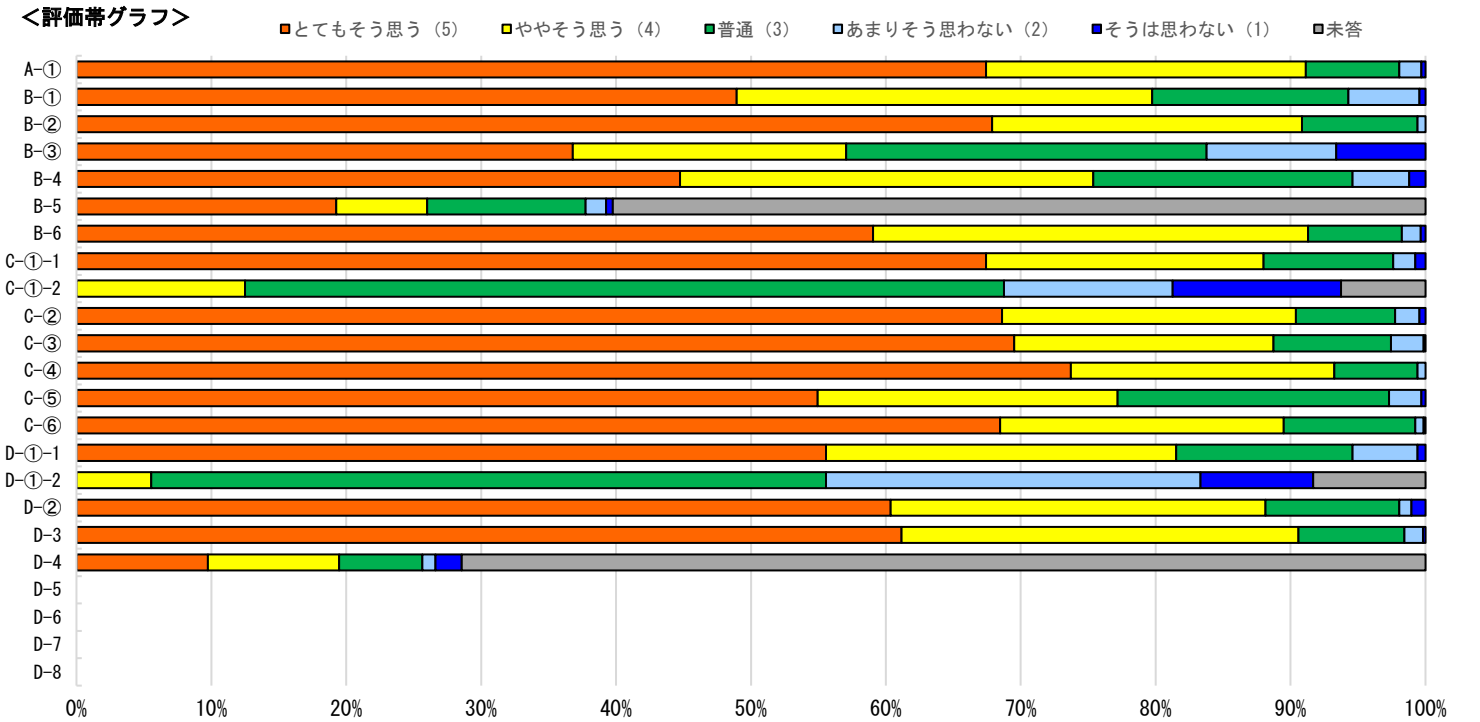
2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英米語学科 共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	266	---	---
24生	86	---	---
23生	226	---	---
22生以前	88	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	666	1,898	35%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	449	158	46	11	2	0	4.6	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	326	205	97	35	3	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	452	153	57	4	0	0	4.6	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	245	135	178	64	44	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	298	204	128	28	8	0	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	77	27	47	6	2	241	4.1	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	339	185	40	8	2	0	4.5	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	449	137	64	11	5	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		2	9	2	2	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	457	145	49	12	3	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	463	128	58	16	1	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	491	130	41	4	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	366	148	134	16	2	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	456	140	65	4	1	0	4.6	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	370	173	87	32	4	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		2	18	10	3	3		
D-② この授業に大変興味を持てた。	402	185	66	6	7	0	4.5	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	351	169	45	8	1	0	4.5	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	30	30	19	3	6	220	3.9	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6



2025年度2期集計区分別評価結果

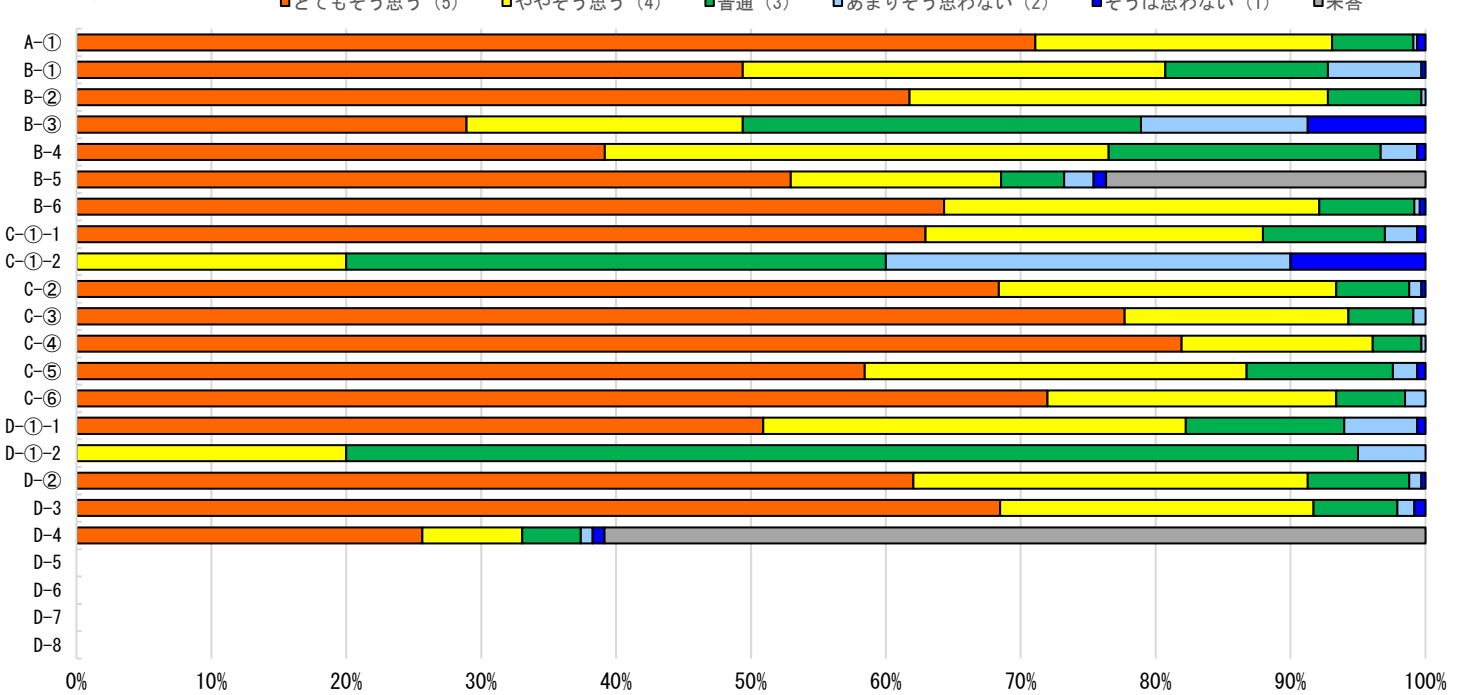
集計単位	学科
集計名称	フランス語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	74	---	---
24生	175	---	---
23生	54	---	---
22生以前	29	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	332	1,030	32%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	236	73	20	1	2	0	4.6	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	164	104	40	23	1	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	205	103	23	1	0	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	96	68	98	41	29	0	3.5	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	130	124	67	9	2	0	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	170	50	15	7	3	76	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	155	67	17	1	1	0	4.6	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	209	83	30	8	2	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		2	4	3	1	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	227	83	18	3	1	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	258	55	16	3	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	272	47	12	1	0	0	4.8	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	194	94	36	6	2	0	4.4	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	239	71	17	5	0	0	4.6	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	169	104	39	18	2	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		4	15	1	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	206	97	25	3	1	0	4.5	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	165	56	15	3	2	0	4.6	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	59	17	10	2	2	140	4.4	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



2025年度2期集計区分別評価結果

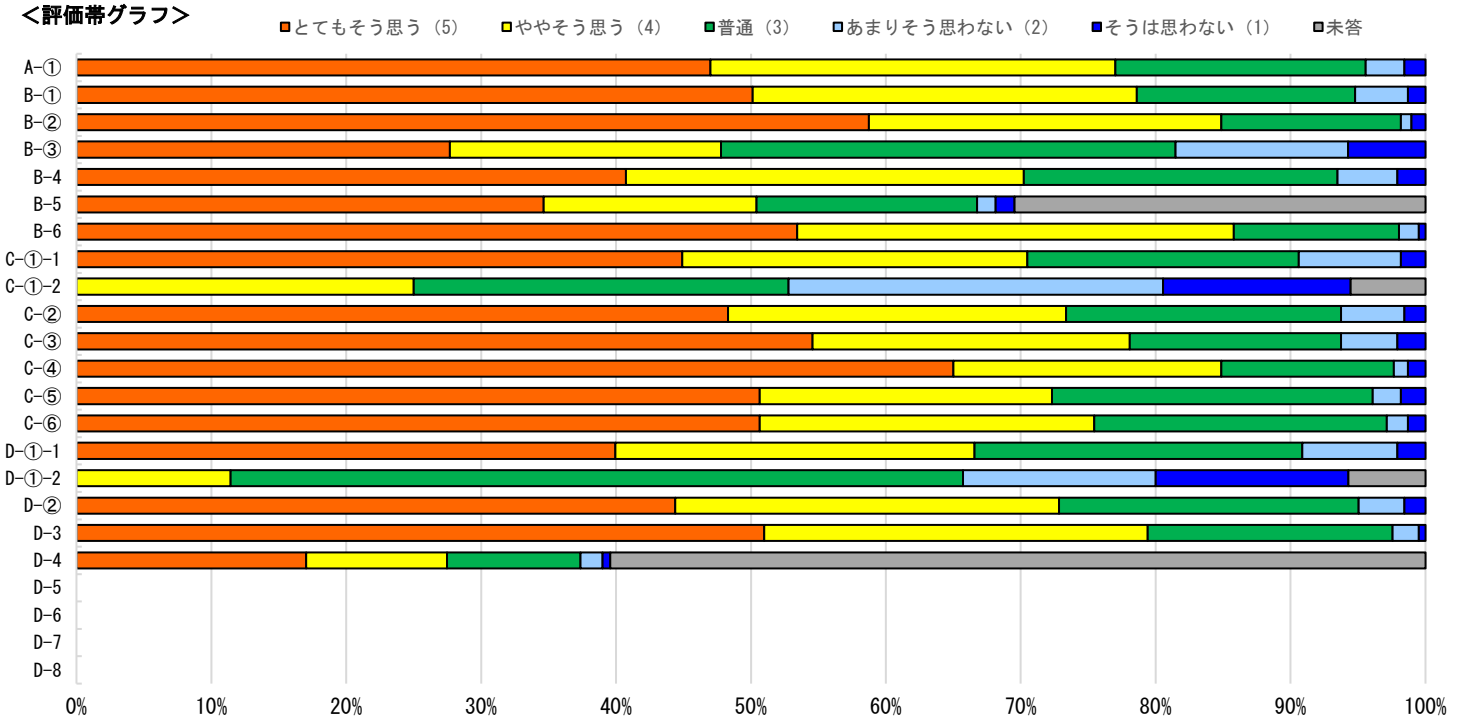
集計単位	学科
集計名称	中国語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	219	---	---
24生	97	---	---
23生	47	---	---
22生以前	19	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	383	1,173	33%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	180	115	71	11	6	0	4.2	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	192	109	62	15	5	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	225	100	51	3	4	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	106	77	129	49	22	0	3.5	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	156	113	89	17	8	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	125	57	59	5	5	110	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	109	66	25	3	1	0	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	172	98	77	29	7	0	4.0	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		9	10	10	5	2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	185	96	78	18	6	0	4.1	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	209	90	60	16	8	0	4.2	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	249	76	49	4	5	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	194	83	91	8	7	0	4.2	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	194	95	83	6	5	0	4.2	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	153	102	93	27	8	0	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		4	19	5	5	2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	170	109	85	13	6	0	4.1	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	104	58	37	4	1	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	31	19	18	3	1	110	4.1	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



2025年度2期集計区分別評価結果

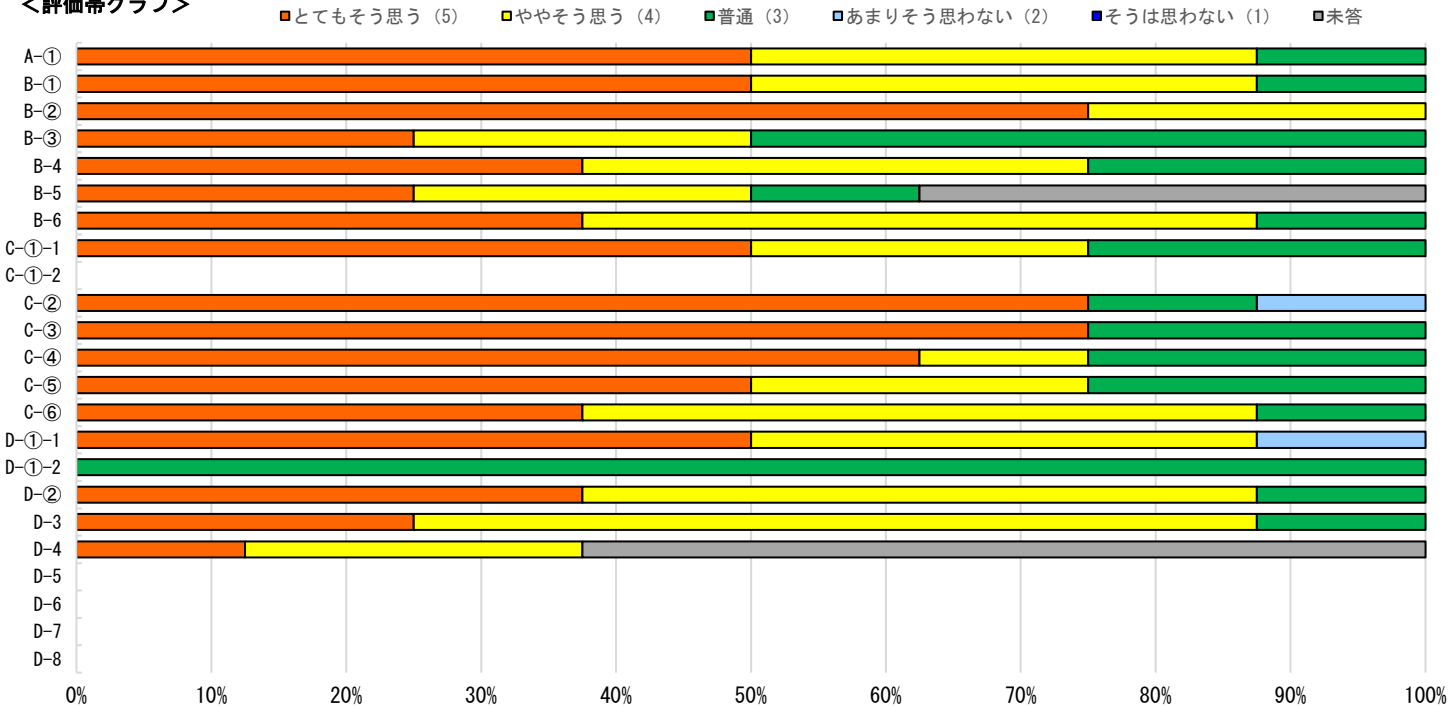
集計単位	学科
集計名称	フランス語・中国語学科共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	0	---	---
24生	0	---	---
23生	6	---	---
22生以前	2	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	8	82	10%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	4	3	1	0	0	0	4.4	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	4	3	1	0	0	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	6	2	0	0	0	0	4.8	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	2	2	4	0	0	0	3.8	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	3	3	2	0	0	0	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	2	2	1	0	0	3	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	3	4	1	0	0	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	4	2	2	0	0	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		0	0	0	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	6	0	1	1	0	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	6	0	2	0	0	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	5	1	2	0	0	0	4.4	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	4	2	2	0	0	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	3	4	1	0	0	0	4.3	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	4	3	0	1	0	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		0	1	0	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	3	4	1	0	0	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	2	5	1	0	0	0	4.1	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	1	2	0	0	0	5	4.3	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



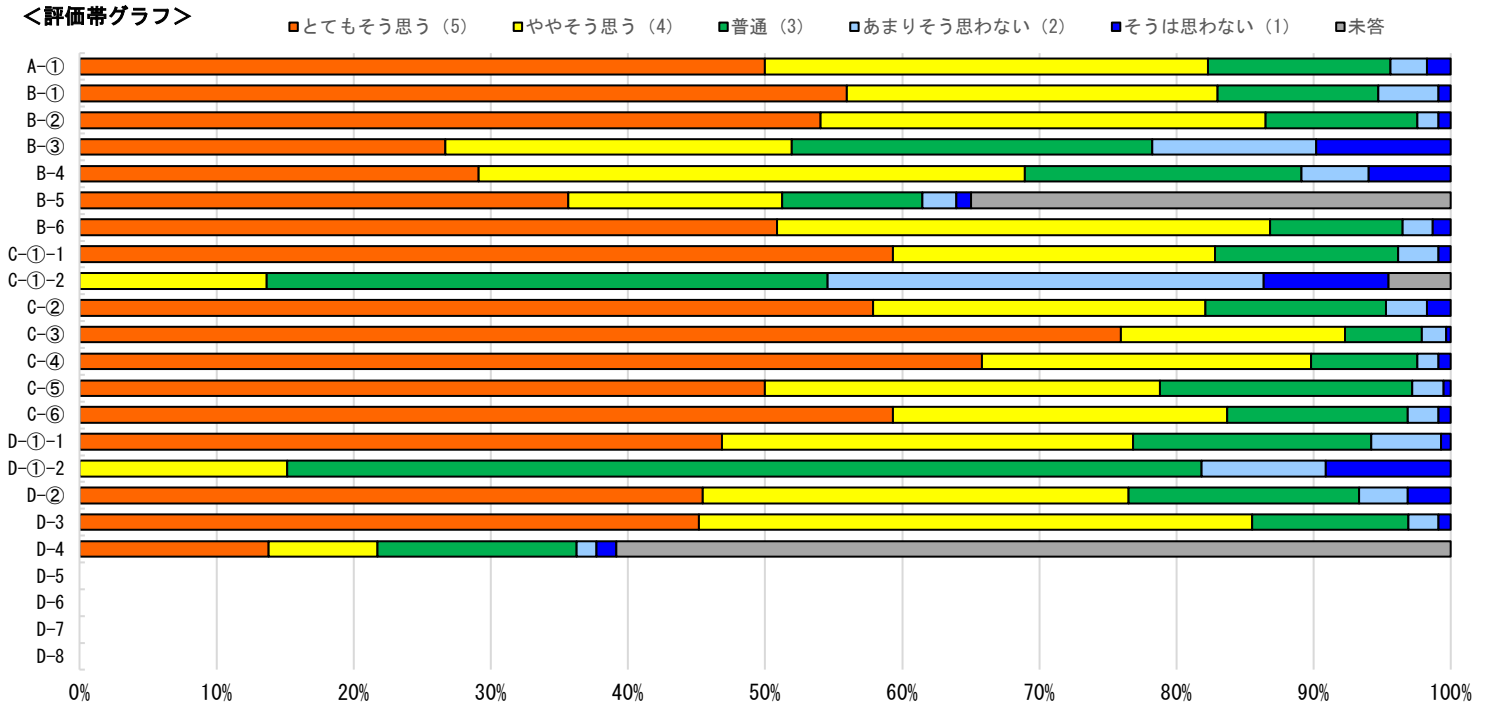
2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	現代英語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	431	---	---
24生	73	---	---
23生	44	---	---
22生以前	22	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	570	1,641	35%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	285	184	76	15	10	0	4.3	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	319	154	67	25	5	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	308	185	63	9	5	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	152	144	150	68	56	0	3.5	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	166	227	115	28	34	0	3.8	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	171	75	49	12	5	168	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	116	82	22	5	3	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	338	134	76	17	5	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 3	少し早い 9	少し遅い 7	遅すぎる 2	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	330	138	75	17	10	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	433	93	32	10	2	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	375	137	44	9	5	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	285	164	105	13	3	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	338	139	75	13	5	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	267	171	99	29	4	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 5	少し高い 22	少し低い 3	低すぎる 3	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	259	177	96	20	18	0	4.1	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	103	92	26	5	2	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	19	11	20	2	2	84	3.8	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6



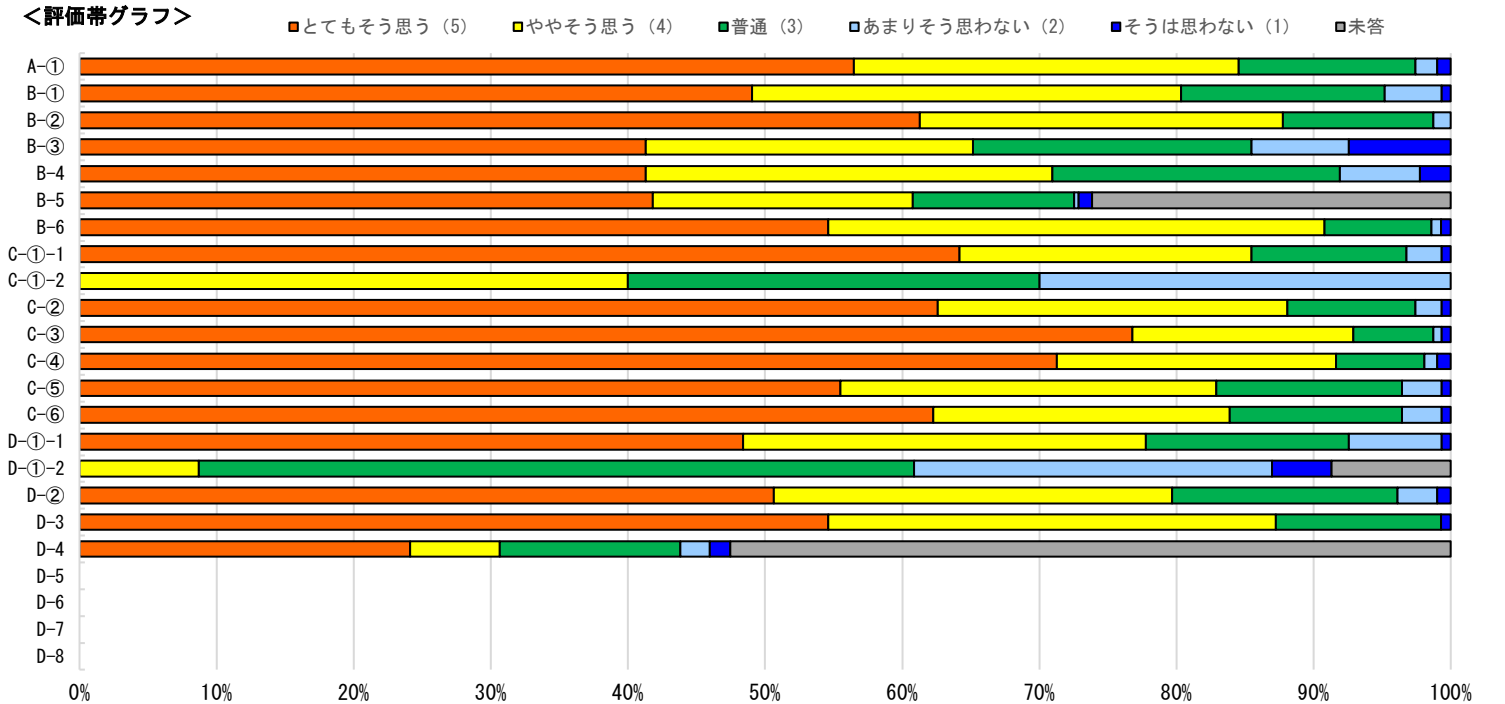
2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	グローバルビジネス学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	167	---	---
24生	91	---	---
23生	45	---	---
22生以前	6	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	310	1,716	18%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	175	87	40	5	3	0	4.4	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	152	97	46	13	2	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	190	82	34	4	0	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	128	74	63	22	23	0	3.8	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	128	92	65	18	7	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	128	58	36	1	3	80	4.4	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	77	51	11	1	1	0	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	199	66	35	8	2	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 4	少し早い 3	少し遅い 3	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	194	79	29	6	2	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	238	50	18	2	2	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	221	63	20	3	3	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	172	85	42	9	2	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	193	67	39	9	2	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	150	91	46	21	2	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 2	少し高い 12	少し低い 6	低すぎる 1	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	157	90	51	9	3	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	77	46	17	0	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	33	9	18	3	2	72	4.0	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6



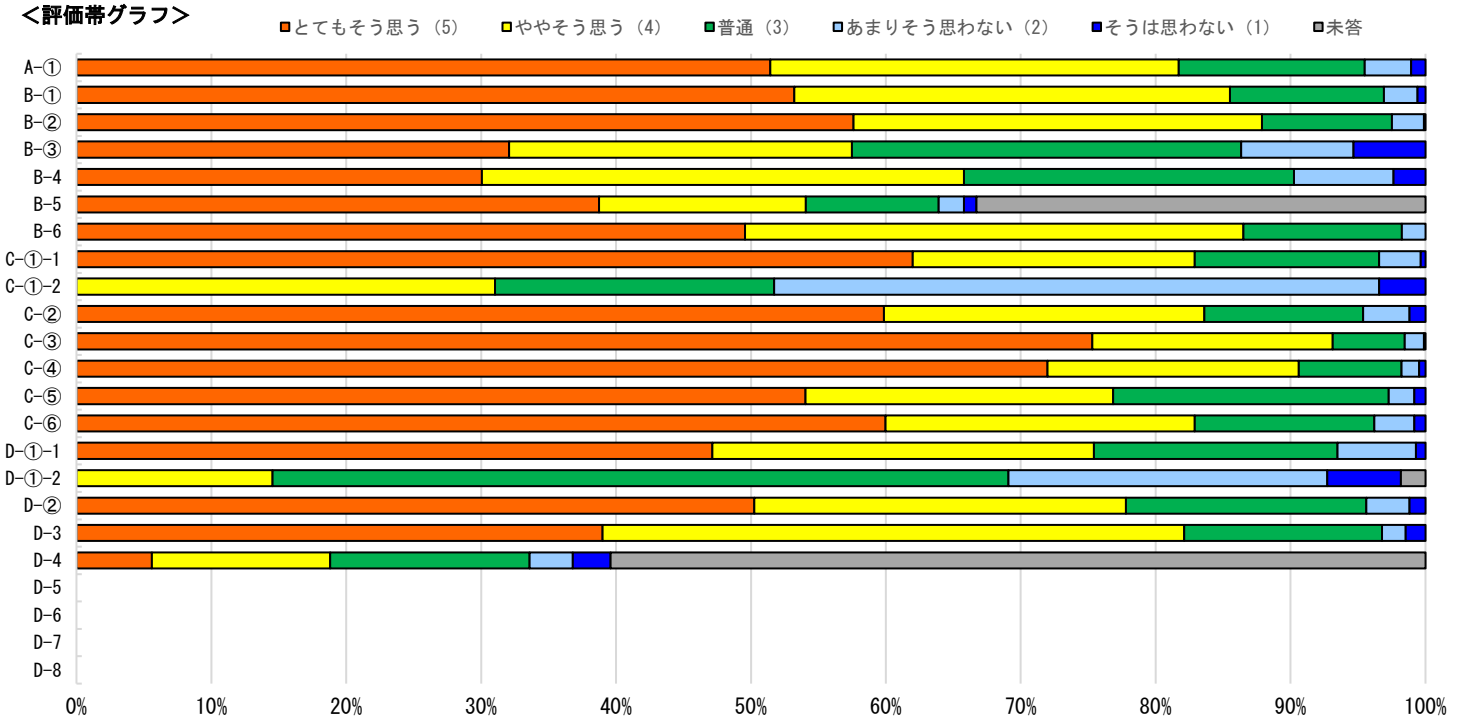
2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際教養学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	556	---	---
24生	227	---	---
23生	39	---	---
22生以前	14	---	---
その他	6	---	---
不明	0	---	---
合計	842	2,329	36%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	433	255	116	29	9	0	4.3	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	448	272	96	21	5	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	485	255	81	20	1	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	270	214	243	70	45	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。	253	301	206	62	20	0	3.8	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	291	115	74	14	7	250	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	169	126	40	6	0	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	522	176	115	26	3	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		9	6	13	1	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	504	200	99	29	10	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	634	150	45	12	1	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	606	157	64	11	4	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	455	192	172	16	7	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	505	193	112	25	7	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	397	238	152	49	6	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		8	30	13	3	1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	423	232	150	27	10	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	133	147	50	6	5	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	14	33	37	8	7	151	3.4	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6



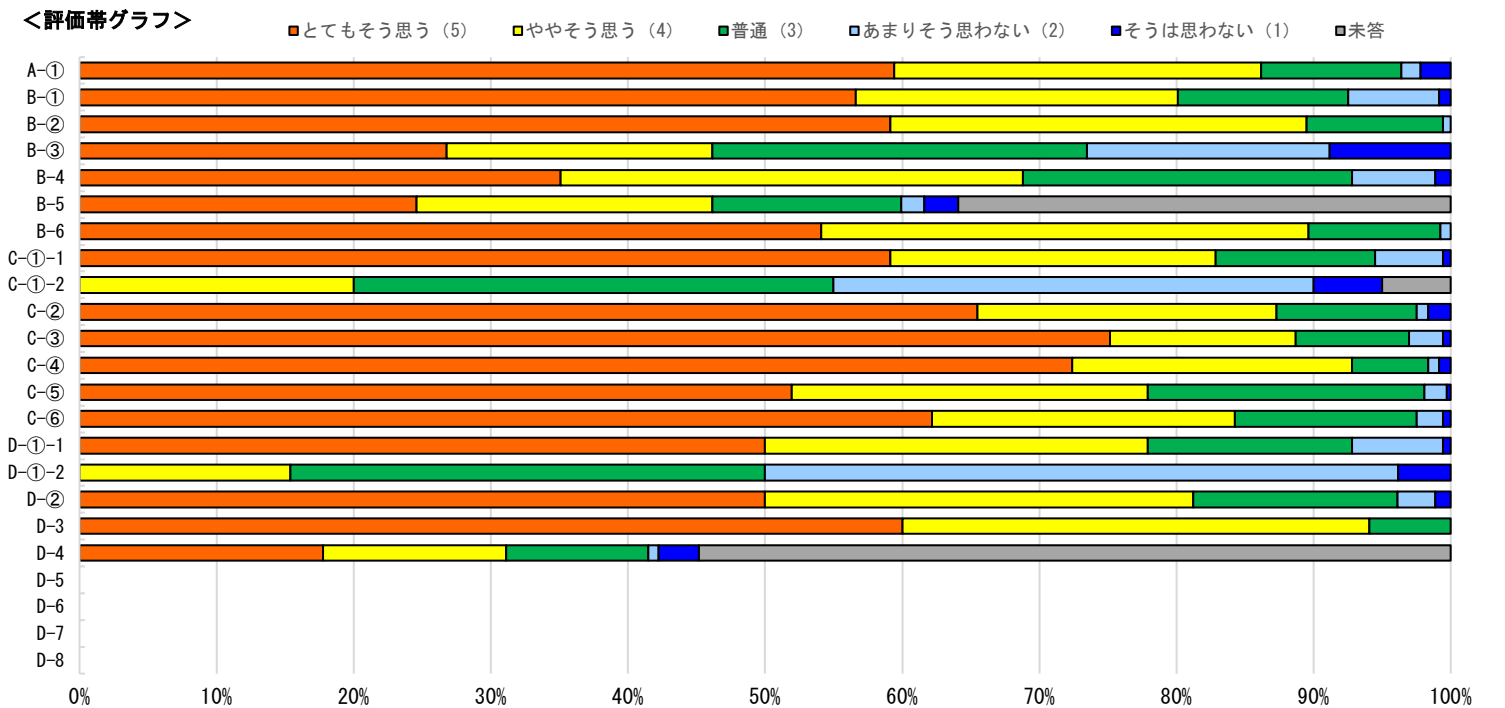
2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	グローバル共生学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	359	---	---
24生	2	---	---
23生	0	---	---
22生以前	1	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	362	692	52%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	215	97	37	5	8	0	4.4	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	205	85	45	24	3	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	214	110	36	2	0	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	97	70	99	64	32	0	3.4	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	127	122	87	22	4	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	89	78	50	6	9	130	4.0	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	73	48	13	1	0	0	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	214	86	42	18	2	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 4	少し早い 7	少し遅い 7	遅すぎる 1	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	237	79	37	3	6	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	272	49	30	9	2	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	262	74	20	3	3	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	188	94	73	6	1	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	225	80	48	7	2	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	181	101	54	24	2	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 4	少し高い 9	少し低い 12	低すぎる 1	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	181	113	54	10	4	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	81	46	8	0	0	0	4.5	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	24	18	14	1	4	74	3.9	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6



2025年度2期集計区分別評価結果

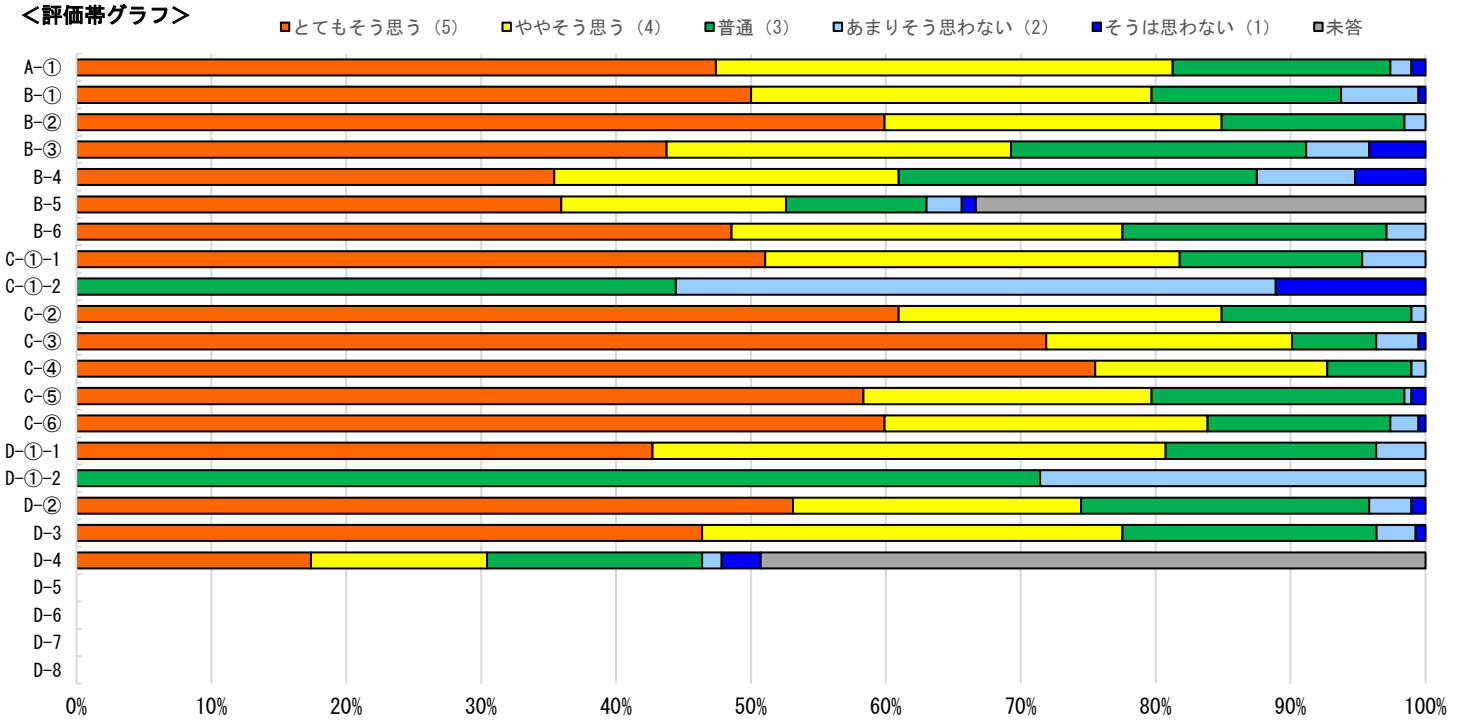
集計単位	学科
集計名称	現代国際学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	17	---	---
24生	94	---	---
23生	60	---	---
22生以前	21	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	192	812	24%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	91	65	31	3	2	0	4.3	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	96	57	27	11	1	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	115	48	26	3	0	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	84	49	42	9	8	0	4.0	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	68	49	51	14	10	0	3.8	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	69	32	20	5	2	64	4.3	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	67	40	27	4	0	0	4.2	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	98	59	26	9	0	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	117	46	27	2	0	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	138	35	12	6	1	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	145	33	12	2	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	112	41	36	1	2	0	4.4	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	115	46	26	4	1	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	82	73	30	7	0	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	102	41	41	6	2	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	64	43	26	4	1	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	24	18	22	2	4	68	3.8	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



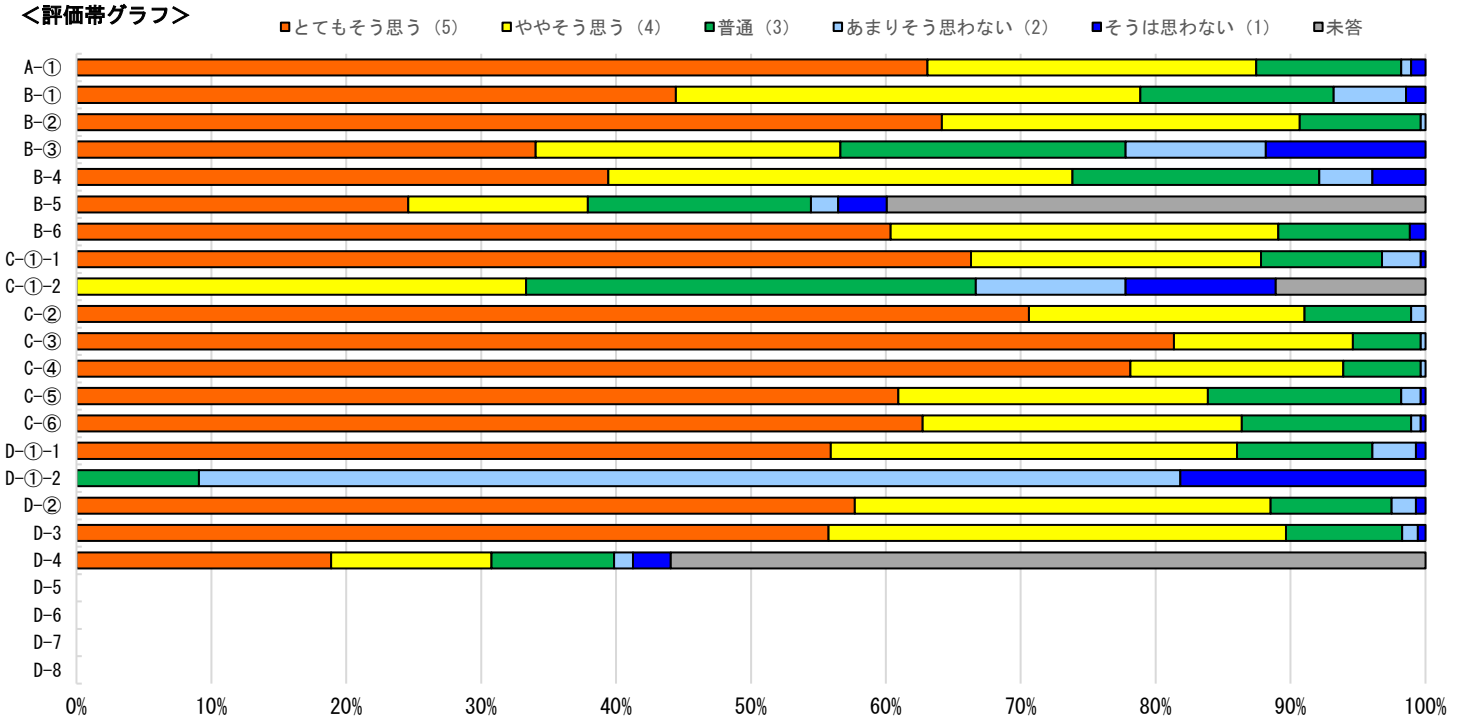
2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界共生学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	31	---	---
24生	143	---	---
23生	66	---	---
22生以前	37	---	---
その他	2	---	---
不明	0	---	---
合計	279	775	36%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	176	68	30	2	3	0	4.5	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	124	96	40	15	4	0	4.2	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	179	74	25	1	0	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	95	63	59	29	33	0	3.6	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	110	96	51	11	11	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	61	33	41	5	9	99	3.9	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	105	50	17	0	2	0	4.5	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	185	60	25	8	1	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		3	3	1	1	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	197	57	22	3	0	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	227	37	14	1	0	0	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	218	44	16	1	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	170	64	40	4	1	0	4.4	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	175	66	35	2	1	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	156	84	28	9	2	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		0	1	8	2	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	161	86	25	5	2	0	4.4	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	97	59	15	2	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	27	17	13	2	4	80	4.0	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6



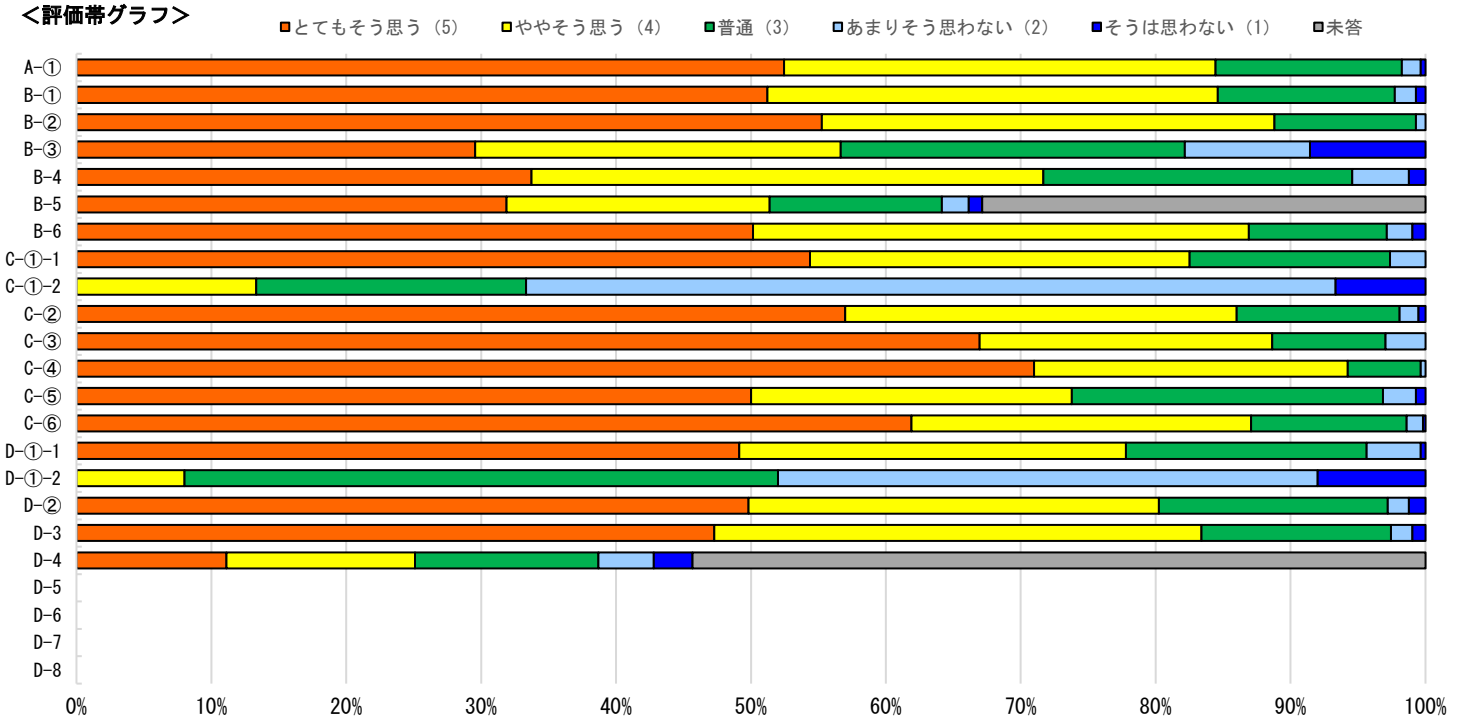
2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学科（養）

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	249	---	---
24生	187	---	---
23生	93	---	---
22生以前	43	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	572	1,888	30%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	300	183	79	8	2	0	4.3	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	293	191	75	9	4	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	316	192	60	4	0	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	169	155	146	53	49	0	3.6	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	193	217	131	24	7	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	160	98	64	10	5	165	4.2	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	157	115	32	6	3	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	311	161	85	15	0	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		2	3	9	1	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	326	166	69	8	3	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	383	124	48	17	0	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	406	133	31	2	0	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	286	136	132	14	4	0	4.2	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	354	144	66	7	1	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	281	164	102	23	2	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		2	11	10	2	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	285	174	97	9	7	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	148	113	44	5	3	0	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	27	34	33	10	7	132	3.6	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6



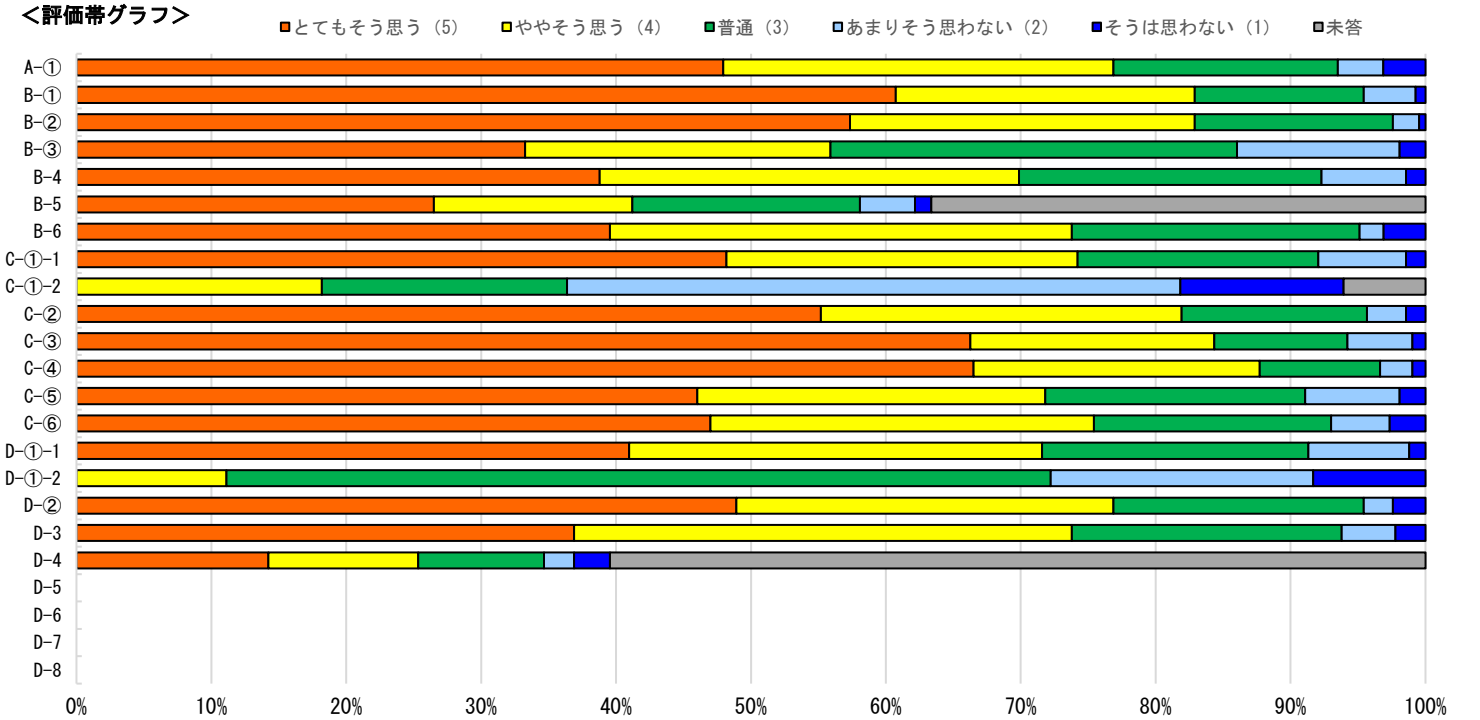
2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際日本学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	176	---	---
24生	153	---	---
23生	73	---	---
22生以前	8	---	---
その他	5	---	---
不明	0	---	---
合計	415	1,346	31%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	199	120	69	14	13	0	4.2	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	252	92	52	16	3	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	238	106	61	8	2	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	138	94	125	50	8	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	161	129	93	26	6	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	110	61	70	17	5	152	4.0	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	89	77	48	4	7	0	4.1	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	200	108	74	27	6	0	4.1	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		6	6	15	4	2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	229	111	57	12	6	0	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	275	75	41	20	4	0	4.4	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	276	88	37	10	4	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	191	107	80	29	8	0	4.1	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	195	118	73	18	11	0	4.1	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	170	127	82	31	5	0	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		4	22	7	3	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	203	116	77	9	10	0	4.2	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	83	83	45	9	5	0	4.0	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	32	25	21	5	6	136	3.8	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6



2025年度2期集計区分別評価結果

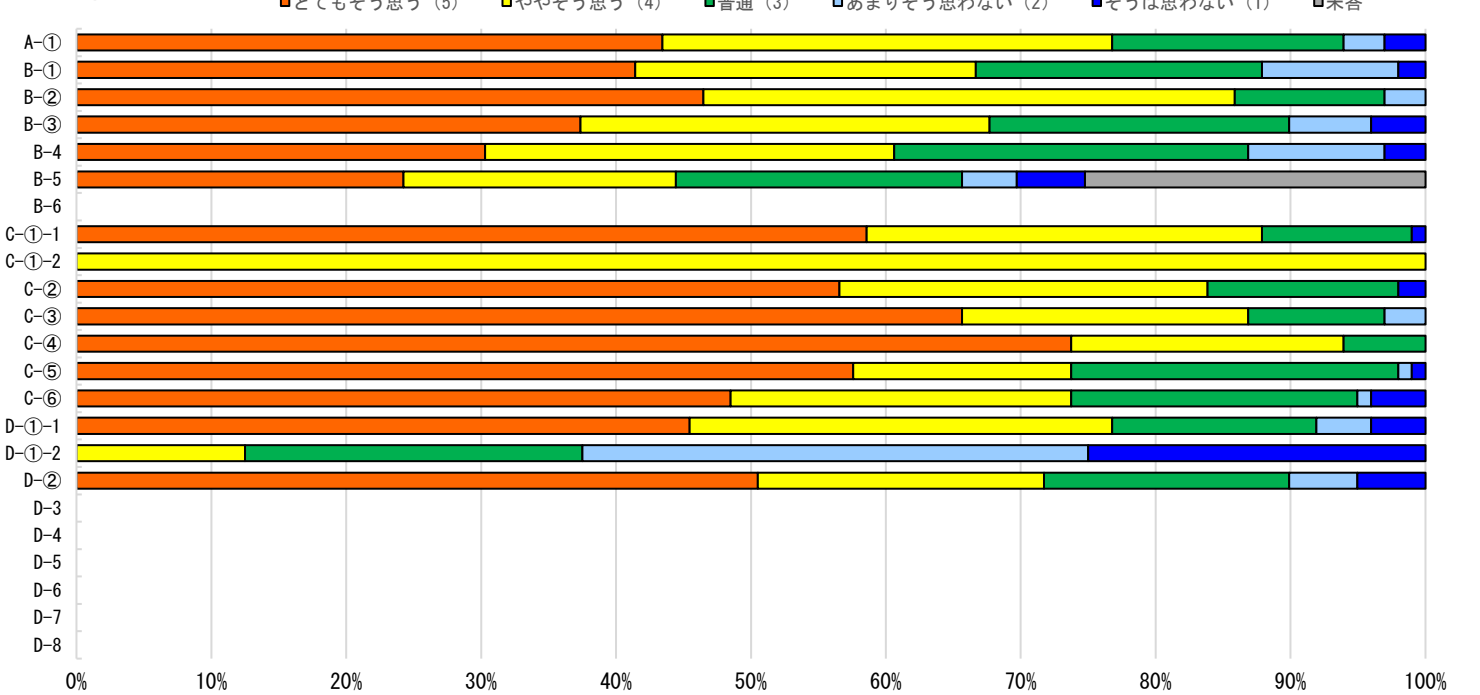
集計単位	学科
集計名称	世界教養学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	38	---	---
24生	39	---	---
23生	11	---	---
22生以前	11	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	99	217	46%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	43	33	17	3	3	0	4.1	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	41	25	21	10	2	0	3.9	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	46	39	11	3	0	0	4.3	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	37	30	22	6	4	0	3.9	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	30	30	26	10	3	0	3.7	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	24	20	21	4	5	25	3.7	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	58	29	11	0	1	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		1	0	0	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	56	27	14	0	2	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	65	21	10	3	0	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	73	20	6	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	57	16	24	1	1	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	48	25	21	1	4	0	4.1	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	45	31	15	4	4	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		1	2	3	2	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	50	21	18	5	5	0	4.1	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



2025年度2期集計区分別評価結果

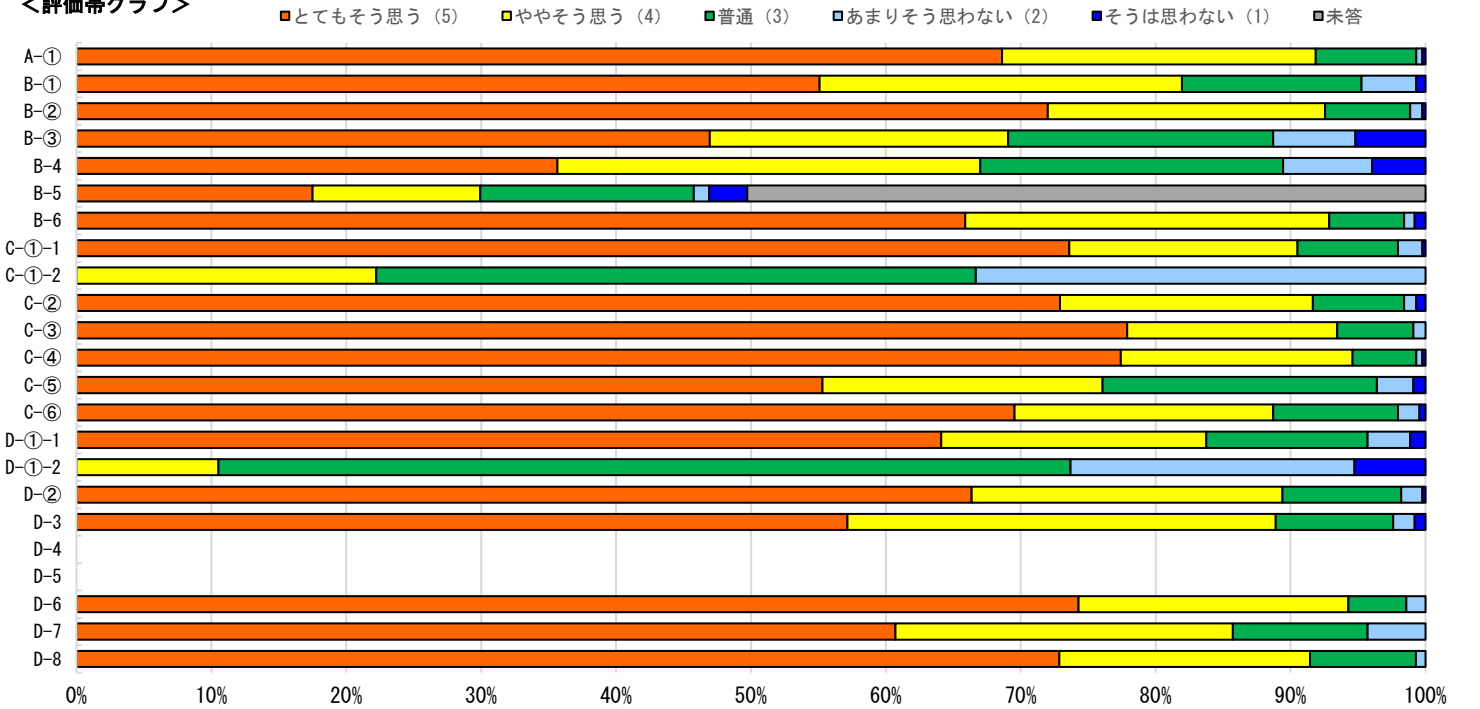
集計単位	学科
集計名称	4 学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	364	---	---
24生	73	---	---
23生	5	---	---
22生以前	0	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	443	1,154	38%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	304	103	33	2	1	0	4.6	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	244	119	59	18	3	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	319	91	28	4	1	0	4.6	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	208	98	87	27	23	0	4.0	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	108	95	68	20	12	0	3.9	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	31	22	28	2	5	89	3.8	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	83	34	7	1	1	0	4.6	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	326	75	33	8	1	0	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		2	4	3	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	323	83	30	4	3	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	345	69	25	4	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	343	76	21	2	1	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	245	92	90	12	4	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	308	85	41	7	2	0	4.6	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	284	87	53	14	5	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		2	12	4	1	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	294	102	39	7	1	0	4.5	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	72	40	11	2	1	0	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	104	28	6	2	0	0	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	85	35	14	6	0	0	4.4	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	102	26	11	1	0	0	4.6	4.6

<評価帯グラフ>



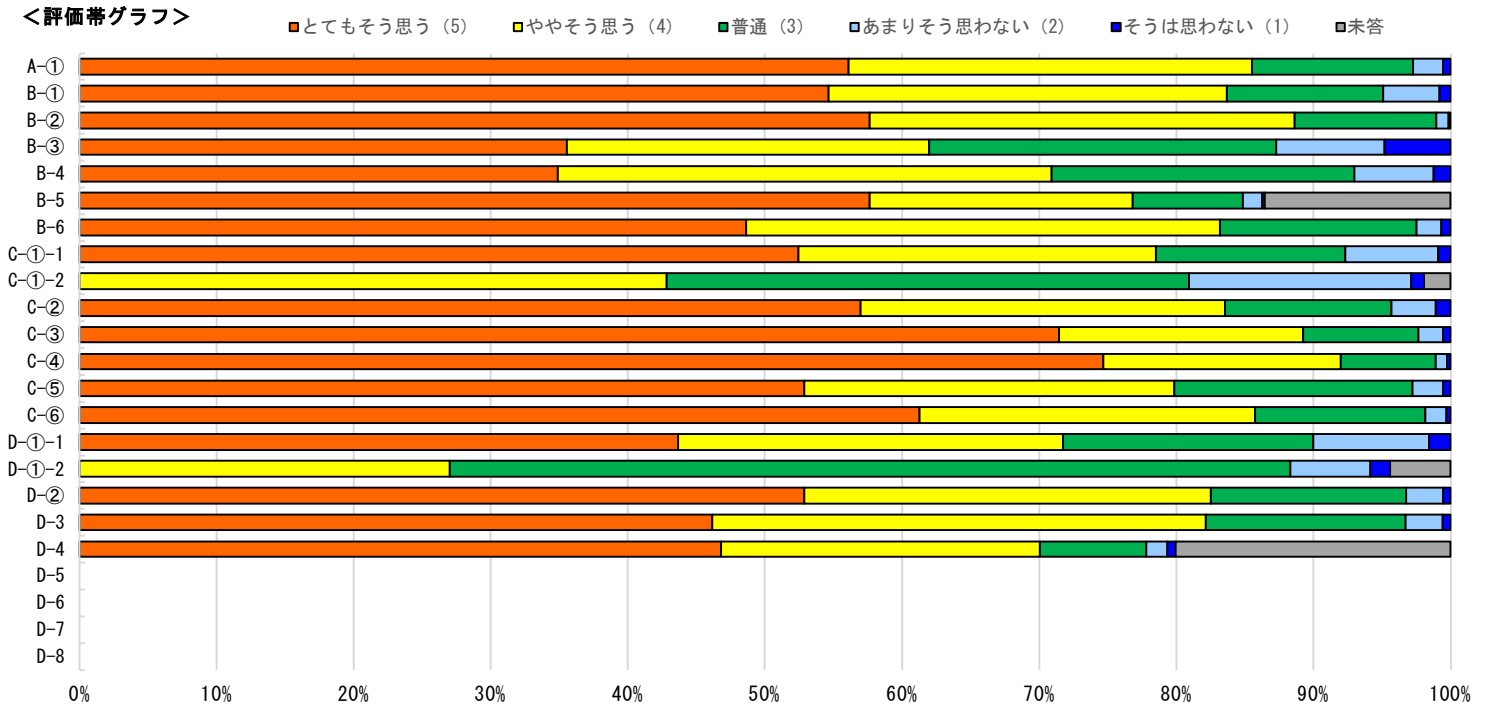
2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	CLED

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	784	---	---
24生	383	---	---
23生	142	---	---
22生以前	57	---	---
その他	1	---	---
不明	0	---	---
合計	1,367	3,965	34%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	767	402	161	30	7	0	4.4	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	747	397	156	56	11	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	788	424	141	12	2	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	486	361	346	108	66	0	3.8	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	477	492	302	79	17	0	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	788	262	110	19	3	185	4.5	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	665	472	196	25	9	0	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	717	356	189	93	12	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	779	45	40	17	1	2	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	977	363	166	44	15	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,021	243	115	25	7	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	723	237	94	12	3	0	4.3	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	838	369	237	31	7	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	597	334	170	21	4	0	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	723	37	84	8	2	6	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	631	405	195	37	7	0	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	640	492	199	37	8	0	4.4	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	318	106	21	8	274	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6



2025年度2期集計区分別評価結果

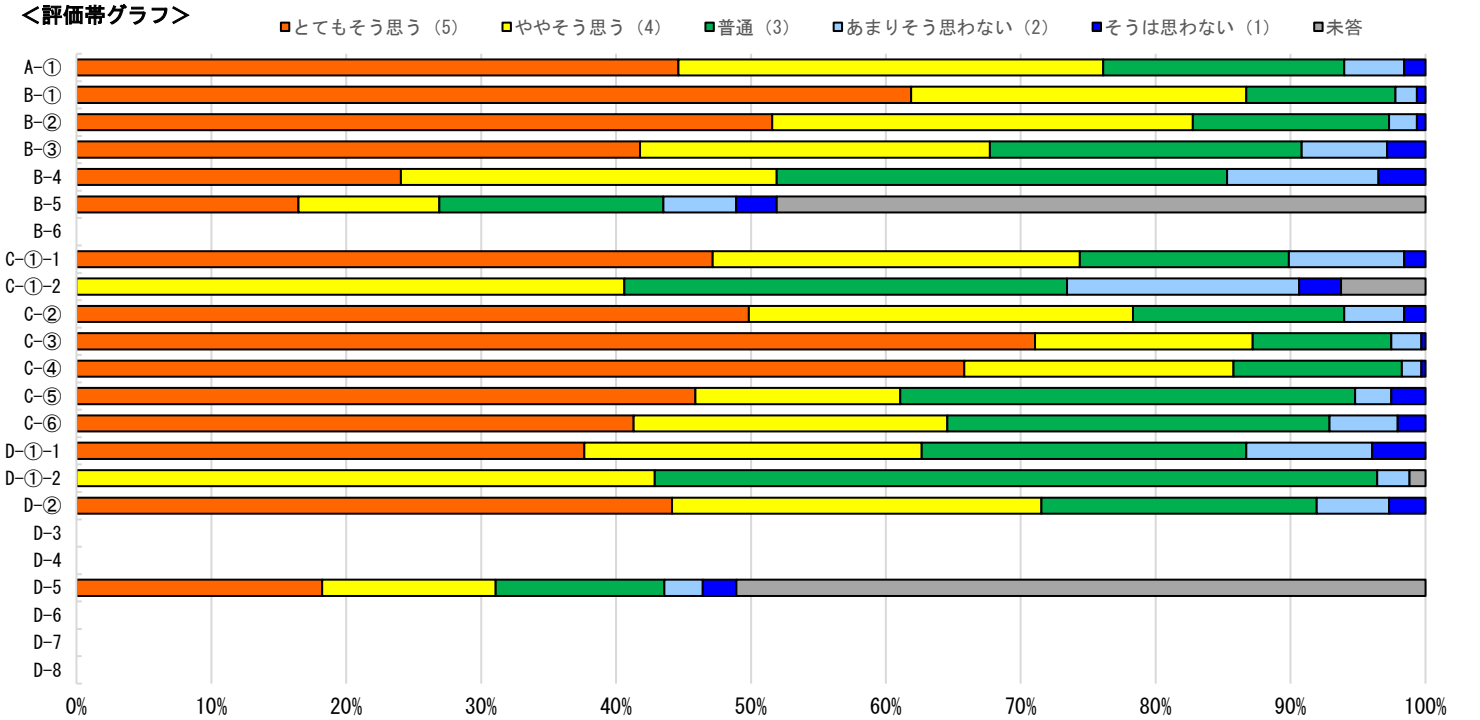
集計単位	学科
集計名称	CLAD

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	266	---	---
24生	218	---	---
23生	87	---	---
22生以前	57	---	---
その他	4	---	---
不明	0	---	---
合計	632	4,068	16%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	282	199	113	28	10	0	4.1	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	391	157	70	10	4	0	4.5	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	326	197	92	13	4	0	4.3	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	264	164	146	40	18	0	4.0	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	152	176	211	71	22	0	3.6	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	104	66	105	34	19	304	3.6	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	298	172	98	54	10	0	4.1	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	315	180	99	28	10	0	4.2	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	449	102	65	14	2	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	416	126	79	9	2	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	290	96	213	17	16	0	4.0	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	261	147	179	32	13	0	4.0	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	238	158	152	59	25	0	3.8	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	279	173	129	34	17	0	4.0	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	51	36	35	8	7	143	3.8	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



2025年度2期集計区分別評価結果

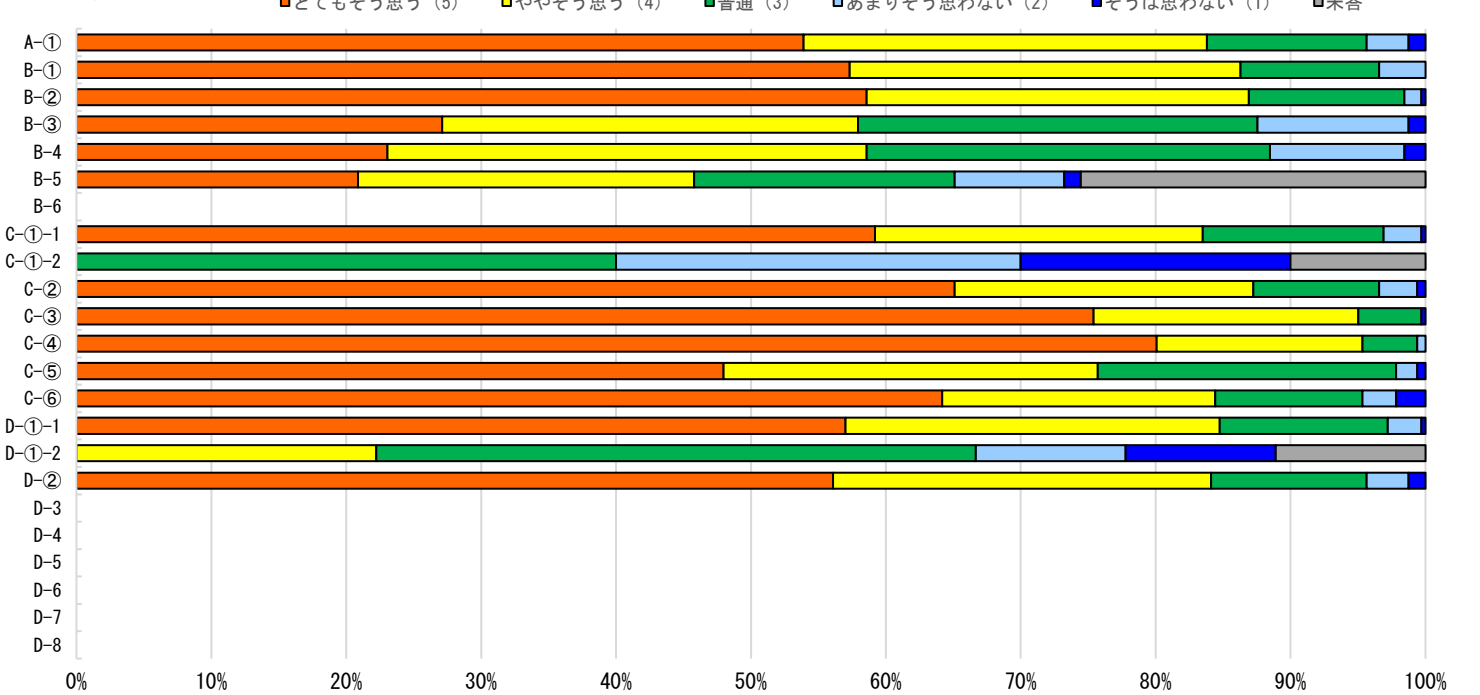
集計単位	学科
集計名称	教職センター

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	93	---	---
24生	93	---	---
23生	96	---	---
22生以前	32	---	---
その他	7	---	---
不明	0	---	---
合計	321	896	36%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	173	96	38	10	4	0	4.3	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	184	93	33	11	0	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	188	91	37	4	1	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	87	99	95	36	4	0	3.7	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	74	114	96	32	5	0	3.7	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	67	80	62	26	4	82	3.8	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上に ついて積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	190	78	43	9	1	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		0	4	3	2	1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	209	71	30	9	2	0	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	242	63	15	0	1	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	257	49	13	2	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	154	89	71	5	2	0	4.2	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	206	65	35	8	7	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	183	89	40	8	1	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		2	4	1	1	1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	180	90	37	10	4	0	4.3	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力 （話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力の いずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことが できた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した 言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による 授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・ 増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが 好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



2025年度2期集計区分別評価結果

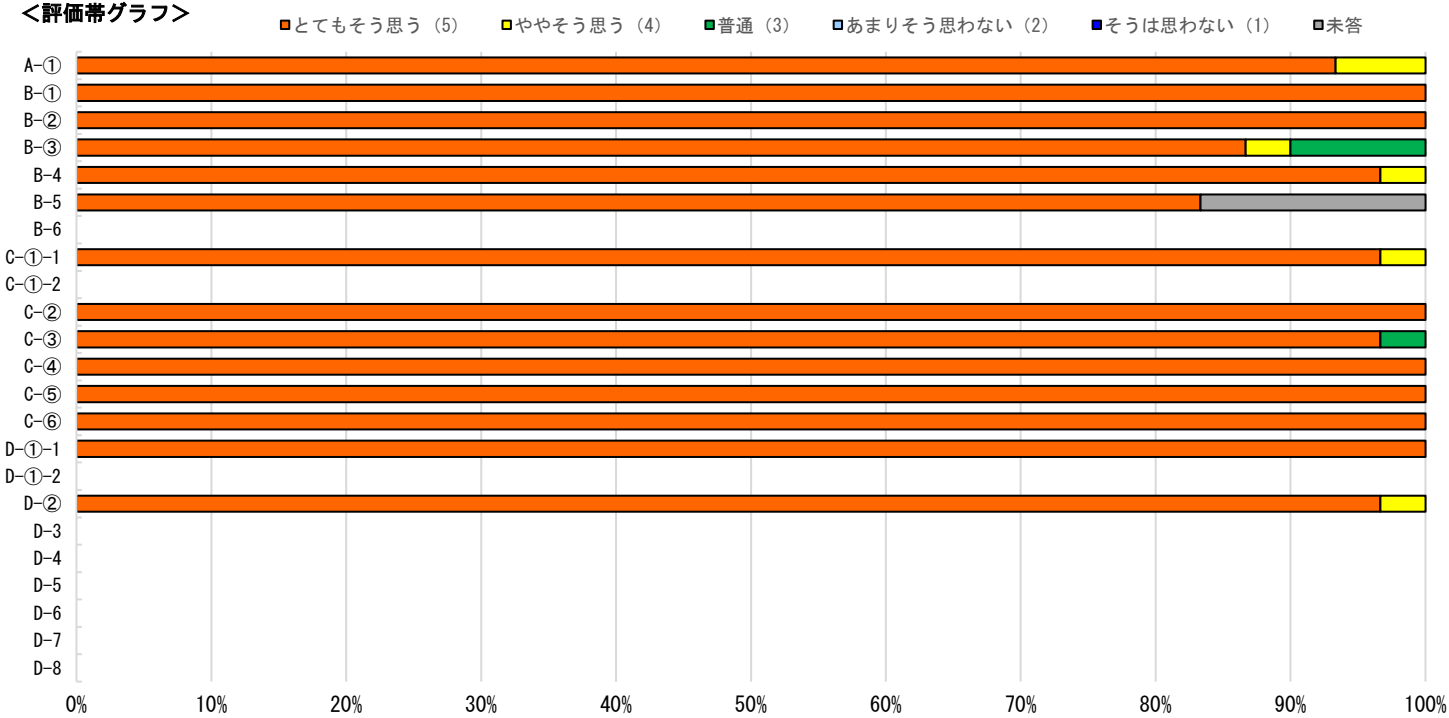
集計単位	学科
集計名称	大学院

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	10	---	---
24生	4	---	---
23生	0	---	---
22生以前	0	---	---
その他	16	---	---
不明	0	---	---
合計	30	59	51%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	28	2	0	0	0	0	4.9	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	30	0	0	0	0	0	5.0	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	30	0	0	0	0	0	5.0	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	26	1	3	0	0	0	4.8	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	29	1	0	0	0	0	5.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	25	0	0	0	0	5	5.0	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	29	1	0	0	0	0	5.0	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		0	0	0	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	30	0	0	0	0	0	5.0	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	29	0	1	0	0	0	4.9	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	30	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	30	0	0	0	0	0	5.0	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	30	0	0	0	0	0	5.0	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	30	0	0	0	0	0	5.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		0	0	0	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	29	1	0	0	0	0	5.0	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

<評価帯グラフ>



2025年度2期集計区分別評価結果

集計単位	学科 別科
集計名称	

入学年度	回答数	受講者数	回収率
25生	80	---	---
24生	3	---	---
23生	3	---	---
22生以前	4	---	---
その他	111	---	---
不明	0	---	---
合計	201	562	36%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	113	63	18	4	3	0	4.4	4.4
B-① この授業には、休まず出席していた。	118	64	16	2	1	0	4.5	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	143	47	11	0	0	0	4.7	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	128	41	17	6	9	0	4.4	3.7
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	97	74	27	3	0	0	4.3	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	103	21	9	2	3	63	4.6	4.2
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	114	46	30	9	2	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 2	少し遅い 5	遅すぎる 3	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	122	55	16	5	3	0	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	165	30	5	1	0	0	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	160	33	6	2	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	135	49	13	4	0	0	4.6	4.3
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	148	44	7	2	0	0	4.7	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	120	51	20	7	3	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 1	少し高い 2	少し低い 2	低すぎる 4	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	128	51	14	7	1	0	4.5	4.3
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語で履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.1
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	3.8
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.6

